

香川県埋蔵文化財調査年報

平成 2 年 度

1991.3

香川県教育委員会

例 言

1. 本書は、平成2年度の県内における埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。
2. 発掘調査結果の概要を掲載した遺跡の位置は図（P66）に示し、埋蔵文化財保護行政、調査の概況については一覧表（P4～11）に示した。
3. 本文頁は通し番号としたが、挿図・図版番号は遺跡ごとに付した。
4. 遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委等主体の調査の順とした。後者については原則として西から東の地域への順とした。
5. 香川県教育委員会事務局文化行政課職員が発掘調査指導を行った遺跡は、各市町の了解のもとに収録した。
6. 各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の1及び50,000分の1の地形図を使用した。
7. 各遺跡の執筆・編集は各調査担当者が行い、全体編集を香川県教育委員会事務局文化行政課が行った。

目 次

1. 平成2年度埋蔵文化財保護行政の動向	1
2. 平成2年度埋蔵文化財保護行政，調査の概況	4
3. 発掘調査結果の概況	
宗吉窯跡	12
月信遺跡	15
宝幢寺跡	20
かめ焼谷1号窯・すべつと4号窯	21
正箱遺跡・薬王寺遺跡	24
鴨部川田遺跡	30
石田高校々庭内遺跡	32
大社遺跡	33
平岡遺跡	34
道音寺遺跡	36
金蔵古墳	38
五条遺跡	41
安造田東3号墳	42
丸亀城跡	44
大原南上古墳	45
西又遺跡	49
讃岐国府跡	50
凹原遺跡	51
浴・松ノ木遺跡	52
弘福寺領田凶関係遺跡	53
高松城跡	54
石舟池古墳	55
諏訪神社遺跡	56
屋島寺跡	58
4. (財)香川県埋蔵文化財調査センター発掘調査概況	60
(1) 四国横断自動車道建設に伴う高松～善通寺発掘調査概況	
(2) 国道バイパス建設に伴う発掘調査概況	
(3) 県事業に伴う発掘調査概況	

1. 平成2年度埋蔵文化財保護行政の動向

1. はじめに

本県では四国横断自動車道及び高松東道路建設に伴う大規模調査に対応するため、昭和62年度に埋蔵文化財センターを設立するとともに、昭和63年度には埋蔵文化財専門職員を倍増し調査体制の充実を図ったが、本年度で両事業とも95%以上の調査が終了し、大規模調査としての峠は越した。3年間の調査成果や反省ならびに充実された県の調査体制を県下全域の埋蔵文化財保護行政に今後どのように生かしていくかが、これからの課題である。

2. 保護体制の充実

本県の現状において、埋蔵文化財保護体制の充実と言えば具体的には次の3点に集約されるであろう。

- ①埋蔵文化財専門職員の配置
- ②埋蔵文化財関係資料の整備
- ③開発情報の把握

現在県内における文化財専門職員数は、県教育委員会に20名、市町教育委員会では5市38町のうち3市2町で8名にすぎない。今年度丸亀市教育委員会に嘱託職員が配置され、市はこの数年で充実の兆しが見えるが、町はこれからの状況である。特に百ヶ所以上の埋蔵文化財包蔵地が所在する町では県の指導・助言だけでは開発との調整が難しくなっており、事前協議の中心となる町教育委員会に埋蔵文化財に関する専門的知識・技術を有する職員を早急に配置することが望まれる。

埋蔵文化財関係資料については、遺跡地図・遺跡台帳の整備に本年度から着手した。昨年度頃から本県においてもリゾートブームが顕在化し、特にゴルフ場の建設が活発化しはじめ、事前協議を円滑に行うためにも正確な遺跡分布地図の必要性が痛感された。このため本年度は遺跡の名称・位置・所在地を正確に把握する作業を行うこととし、県と市町とのデータを照合し遺跡件数を確定する作業をおこなった。次年度以降は遺跡の範囲、性格等の内容面の充実が課題である。

開発情報の把握については、県では57年度以降実施している公共工事計画の照会システムを継続しているが、市町においてはこれがほとんど行われていないのが実情である。民間開発については5畝以上の大規模開発は県の承認を必要とするため県教育委員会で情報を把握できるが、これ以下は具体的な方法を今後整備していかなければならない。

3. 開発の動向と発掘調査状況

本年度の県下における発掘調査面積は約18万㎡で、このうち約90%が高速道路や国道バイパス建設に伴う事前調査となっている。この傾向は63年度以降の常態で、かつ過去10年間で大規模な道路網建設ごとに繰り返されてきた現象である。つまり道路建設が計画されると年間10～20万㎡

の大規模発掘調査が数ヶ年続き、これが終わった数ヶ年間は4～7万㎡と調査面積が減少し、次の大規模調査に続くわけである。

この過去の事例から近い将来の調査状況を予測してみると、大規模な道路建設は高松東道路三木・津田間と東四国横断自動車道引田・津田間とが計画されている。前者は山間部を通過し、本年度実施した分布調査結果からみても、発掘調査総面積は数万㎡に留まると推定できる。現在用地取得段階で発掘調査のピークは平成4年度以降とみてよからう。これに対し、後者は低丘陵地帯を通過する割合が多く、発掘調査面積は三木・津田間に比べると増えるものと予測できるが、この路線は現在環境アセスメント実施中であり、発掘調査時期は特定できない。

以上の予測からすると、平成3年度から引田・津田間の発掘調査が本格化する年次までの間は発掘調査の減少期に当たる時期となるが、この時期には県が行う空港跡地開発整備事業に伴う発掘調査が見込まれており、今後数年は年間調査面積は10万㎡以上で推移することになるだろう。

国、県の大規模な開発とは別に、民間による大規模なリゾート開発が活性化しており、事業予定地内に埋蔵文化財包蔵地が含まれる事例が年々増加する傾向にある。瀬戸大橋完成以後、県内の開発は大規模化し、かつ地域が島しょ部や山間部にも及んできており、このような開発動向を踏まえて適切な埋蔵文化財保護行政の推進が必要となっている。

4. 史跡指定と保存活用

本年度の史跡指定は、中世山城の天霧城跡が国史跡に指定（平成2年5月16日）された。この指定で、県内の国指定史跡は14件となった。

史跡の保存活用では特別史跡讃岐国分寺跡と史跡有岡古墳群（王墓山古墳）の整備が前年度に引き続き進められた。また、昨年度公有地化された石清尾山古墳群の鶴尾神社4号墳では、墳丘・石室崩壊防止の応急保存工事が実施された。

三野町の金蔵古墳や綾歌町の大原南上古墳は町教育委員会主体で確認調査が行われ、金蔵古墳では整備工事も併せて実施された。

満濃町の安造田東3号墳は住宅建設のため記録保存を目的で調査に着手したが、地権者の協力や町の努力により現状保存されることになった。

奈良時代の瓦窯跡である三野町の宗吉窯跡は試掘調査により所在地が再確認され、地元や県農林部の協力により農道ルートが変更され、現状保存される見通しである。

5. 発掘調査成果

本年度の発掘調査については第3項で報告されているが、ここでは時代ごとに主な調査成果をまとめてみることにする。

旧石器時代では高松市の中間西井坪遺跡で舟底形石器、ナイフ形石器等がまとめて検出され、火山灰と石器群の関係が層位的に確認された。

縄文時代の調査は本年度はなかった。

弥生時代では志度町の鴨部川田遺跡で前期の集落跡が調査された。東讃地域ではこの時期の初の調査例である。坂出市の川津下樋遺跡では前期～中期の水田跡や井堰が検出された。高松市の前田東中村遺跡では中期の方形周溝墓の周溝部が検出された。

古墳時代では集落跡や古墳が多く調査された。集落跡は坂出市の川津一ノ又遺跡を中心に大規模に調査された。中間西井坪遺跡では埴輪を焼成した土坑や陶棺を収めた大形竪穴住居址が検出され、埴輪工房跡と推定された。古墳では満濃町の安造田東3号墳で多数の副葬品が出土したが、中でも銀象嵌の鏝やモザイク模様のガラス玉は注目できる。高松市の諏訪神社遺跡は弥生時代末～古墳時代初めに比定されるもので3基の竪穴式石室が検出されている。

古代では前田東中村遺跡で奈良時代の大型掘立柱建物跡が検出された。近くには建物主軸を揃えた建物が3棟あり、遺跡の性格が注目される。寺跡では宝幢寺跡、道音寺跡が小規模ながら調査され、成果をあげている。窯跡は、宗吉瓦窯跡の他、須恵器窯跡としてかめ焼谷1号窯・すべっと4号窯が再調査され、前回の調査成果を含んだ報告書が発刊される予定である。

中世では土鍋、鉢等の窯跡を検出した楠井遺跡の調査が注目できる。

近世では高松城跡、丸亀城跡、屋島寺跡が調査され、それぞれ成果をあげている。

6. おわりに

本年度、発掘調査現場で作業中に死傷者がでる事故が発生した。強風により写真用足場が倒壊したもので、発掘作業といえども危険と隣り合わせであることをまざまざとみせつけられた。現在埋蔵文化財センターで安全管理の再点検が精力的に進められており、同じ轍を二度と踏まない決意で、新年度から新たに埋蔵文化財保護に取り組んでまいりたい。

平成2年度埋蔵文化財保護行政，調査の概況〔発掘調査の概況〕

番号	遺 跡				調 査	
	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原因者
1	龍川五条遺跡	善通寺市原田町	集落跡	弥生 ～近世	四国横断自動車道(善通寺～高松)建設	道路公団
2	龍川四条遺跡	〃 木徳町	〃	古代 ～中世	〃	〃
3	川津中塚遺跡	坂出市川津町	〃	弥生 ～中世	〃	〃
4	川津下樋遺跡	〃 〃	〃	奈良 ～中世	〃	〃
5	川津二代取遺跡	〃 〃	〃	弥生 ～中世	〃	〃
6	川津一ノ又遺跡	〃 〃	〃	〃	〃	〃
7	川津川西遺跡	〃 〃	〃	中世	〃	〃
8	川津東山田遺跡	〃 〃	〃	弥生 ・中世	〃	〃
9	府中地区	坂出市府中町	包含地	不明	〃	〃
10	国分寺楠井遺跡	綾歌郡国分寺町福家	生産遺跡	中世	〃	〃
11	中間西井坪遺跡	高松市中間町	集落跡	弥生 ～中世	〃	〃
12	太田下・須川遺跡	〃 太田下町	〃	弥生	高松東道路建設	国 (建設省)
13	前田東・中村遺跡	〃 前田東町	〃	弥生 ～中世	〃	〃
14	鴨部川田遺跡	大川郡志度町鴨部	〃	弥生	〃	〃
15	高松空港跡地地区	〃 林町	包含地	弥生 ～中世	空港跡地開発整備事業	県
16	空港跡地遺跡	〃 〃	集落跡	〃	〃	〃
17	道下遺跡	丸亀市金倉町	〃	弥生 ～平安	県道建設	〃
18	池ノ山環状敷石遺構	坂出市府中町	配石	中世	埋蔵文化財センター 駐車場造成	県教委
19	前田西地区	高松市前田西町	包含地	不明	高松東道路建設	国 (建設省)
20	本村原遺跡 須ノ又遺跡	三豊郡高瀬町下勝間	集落跡	中世	県営ほ場整備	県
21	鴨部川田遺跡	大川郡志度町鴨部	〃	弥生	高松東道路建設	国 (建設省)
22	宗吉津窠跡 吉津地区	三豊郡三野町吉津	生産遺跡	奈良 ・中世	県営ほ場整備	県

		調				査	
対 処	調査主体	調査面積	調査期間	担 当 者	費用負担	文化財保護法	調査後の措置等
事前調査	県教委	(㎡) 10,200	2.4.9 ~12.5	（財）香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	57条の3 (98条の2)	工事実施予定
〃	〃	1,700	2.5.28 ~10.24	〃	〃	〃	〃
〃	〃	15,290	2.5.10 ~3.2.28	〃	〃	〃	〃
〃	〃	9,650	2.5.10 ~3.1.31	〃	〃	〃	〃
〃	〃	10,400	2.5.10 ~3.3.8	〃	〃	〃	〃
〃	〃	35,160	2.4.12 ~3.3.28	〃	〃	〃	〃
〃	〃	5,400	2.5.10 ~3.1.17	〃	〃	〃	〃
〃	〃	28,100	2.8.2 ~3.3.20	〃	〃	〃	〃
〃	〃	3,000	2.9.25 ~2.12.19	〃	〃	〃	〃
〃	〃	4,400	2.4.11 ~10.9	〃	〃	〃	〃
〃	〃	8,680	2.5.10 ~3.3.25	〃	〃	〃	〃
〃	〃	830	2.4.1 ~4.30	〃	国 (建設省)	〃	〃
〃	〃	2,485	2.5.1 ~7.31	〃	〃	〃	〃
〃	〃	5,000	2.9.20 ~3.2.28	〃	〃	〃	〃
確認調査	〃	320,000	2.4.1 ~9.30	〃	県	98条の2	事前調査実施
事前調査	〃	3,000	2.12.22 ~3.3.26	〃	〃	57条の3 (98条の2)	工事実施予定
〃	〃	3,500	2.10.1 ~3.3.31	〃	〃	〃	〃
確認調査	〃	29	2.5.24 ~5.25	県教委職員	県教委	98条の2	現状保存
〃	〃	600	2.6.11 ~6.15	〃	〃	〃	工事実施予定
〃	〃	470	2.7.3 ~7.5	〃	〃	〃	9,000㎡現状保存
〃	〃	324	2.7.3 ~7.5	〃	〃	〃	12,000㎡記録保存
〃	〃	440	2.7.6 ~7.9	〃	〃	〃	40㎡現状保存

平成2年度埋蔵文化財保護行政，調査の概況

番号	遺 跡				調 査	
	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原因者
23	石田高校々庭内遺跡	大川郡寒川町石田東	集 落 跡	弥生 ～古墳	学校建設	県 教 委
24	かめ焼谷1号窯 すべっと4号窯	綾歌郡綾南町陶	生産遺跡	平安	十瓶地区工業団地造成	県
25	大 社 遺 跡	大川郡大内町水主	包 含 地	弥生 ～中世	県営ほ場整備	〃
26	羽 間 地 区	仲多度郡満濃町羽間外	集 落 跡 集 古 墳	古墳 ～古代	満濃バイパス建設	国 (建設省)
27	富田中宮町地区	大川郡大川町富田中	集 落 跡	弥生 ～古墳	県営ほ場整備	県
28	月 信 遺 跡	善通寺市碑殿町	〃	弥生 ～奈良	県営畑総農道建設	〃
29	六条・上所遺跡	高松市元山町	包 含 地	不明	高松東道路建設	国 (建設省)
30	屋 島 城 跡	高松市屋島東町	山 城	古代	公衆便所改築	県
31	壇 紙 地 区	高松市壇紙町	集 落 跡	奈良・平安	県道改良事業	〃
32	大 社 遺 跡	大川郡大内町水主	包 含 地	弥生 ～中世	県営ほ場整備	〃
33	宗 吉 窯 跡	三豊郡三野町吉津	生産遺跡	奈良	〃	〃
34	正 箱 遺 跡 薬 王 寺 遺 跡	高松市壇紙町	集 落 跡	奈良・平安	県道改良事業	〃
35	壇 紙 地 区	高松市壇紙町外	〃	〃	〃	〃
36	月 信 遺 跡	善通寺市碑殿町	〃	弥生 ～奈良	県営畑総農道建設	県
37	屋 島 寺 跡	高松市屋島東町	社 寺 跡	奈良・平安	宝物館建設	屋 島 寺
38	櫛 梨 城 跡	仲多度郡琴平町下櫛梨	山 城	中世	宅地造成	業 者
39	讃 岐 国 府 跡	坂出市府中町	官 衙 跡	奈良・平安	用水路改修事業	〃
40	高 松 城 跡	高松市玉藻町	城 郭	近世	玉藻公園整備	市
41	五 条 遺 跡	善通寺市原田町	集 落 跡	弥生	市道改修	〃
42	西 又 遺 跡	坂出市川津町	〃	〃	鉄塔建替工事	業 者
43	多 肥 下 町 地区	高松市多肥下町	〃	〃	土地区画整理事業	市

対 処	調査主体	調		査			調査後の措置等
		調査面積 (㎡)	調査期間	担 当 者	費用負担	文化財保護法	
確認調査	県 教 委	13	2.7.11	県教委職員	県 教 委	98条の2	2.8.30立会調査 工事実施
事前調査	〃	85	2.7.23 ～8.8	〃	県	57条の3 (98条の2)	工事実施
確認調査	〃	89	2.8.9 ～8.10	〃	県 教 委	98条の2	〃
〃	〃	731	2.9.5 ～9.13	〃	〃	〃	8,500㎡記録保存 13㎡現状保存
〃	〃	176	2.9.5 9.13	〃	〃	〃	4,450㎡現状保存
〃	〃	64	2.9.21 ～10.3	〃	〃	〃	1,920㎡記録保存
〃	〃	50	2.10.23	〃	〃	〃	工事実施
〃	〃	15	2.10.24	〃	〃	80条	〃
〃	〃	320	2.11.8 ～11.13	〃	〃	98条の2	6,900㎡記録保存
〃	〃	60	2.11.13 ～11.14	〃	〃	〃	工事実施
〃	〃	18	2.11.16 ～11.19	〃	〃	〃	145㎡記録保存
事前調査	〃	1,080	3.1.7 ～2.16	〃	県	57条の3 (98条の2)	工事実施
確認調査	〃	454	3.1.16 ～1.18	〃	県 教 委	98条の2	5,170㎡について 事前の保護措置必要
事前調査	〃	485	2.10.29 ～3.2.13	〃	〃	57条の3 (98条の2)	工事実施
〃	市 教 委	300	2.4.5 ～5.31	市教委職員・県 教委職員指導	屋 島 寺	80条	工事実施
〃	町 教 委	31	2.4.6	町教委職員・県 教委職員指導	町 教 委	98条の2	協議中
〃	市 教 委	634	2.4.27 ～2.5.10	市教委職員	業 者	〃	工事実施
確認調査	〃	540	2.5.14 ～6.5	〃	国・県・市	80条	公園整備
事前調査	〃	421	2.6.4 ～6.5	〃	市 教 委	57条の3 (98条の2)	工事実施
確認調査	〃	80	2.6.11 6.14	〃	業 者	98条の2	180㎡記録保存
〃	〃	468	2.6.25 ～6.27	〃	市 教 委	〃	3,000㎡記録保存

平成2年度埋蔵文化財保護行政，調査の概況

番号	遺 跡		調 査		原因者	
	名 称	所 在 地	種 類	時 代		原 因
44	母神山古墳群 上母上5.6.7号墳	観音寺市木之郷町	古 墳	古墳	三豊運動公園拡張事業	組 合
45	安造田東3号墳	仲多度郡満濃町羽 間	〃	〃	宅地造成	個 人
46	松 縄 地 区	高松市松縄町外	包 含 地	不明	土地区画整理事業	市
47	讃岐国府跡	坂出市府中町	官 衙 跡	奈良 ・平安	個人住宅建設	個 人
48	浴・松ノ木遺跡	高松市林町	集 落 跡	弥生 ～中世	高松市東道路建設	国 (建設省)
49	妙音寺周辺遺跡	三豊郡豊中町上高 野	包 含 地	弥生	遺跡詳細分布調査	町 教 委
50	西 又 遺 跡	坂出市川津町	集 落 跡	〃	鉄塔建替工事	業 者
51	諏訪神社本殿裏古墳 久米山5号墳	高松市東山崎町	古 墳	古墳	神社移築	神 社
52	松ノ元1号塚	高松市太田下町	その他の 墓	中世	土地区画整理事業	市
53	諏訪神社遺跡	高松市東山崎町	古 墳	古墳	神社移築	神 社
54	凹 原 遺 跡	高松市多肥下町	集 落 跡	弥生	都市計画道路建設事業	市
55	金 蔵 古 墳	三豊郡三野町吉津	古 墳	古墳	遺跡整備	町 教 委
56	大原南上遺跡	綾歌郡綾歌町富熊	箱式石棺	〃	〃	〃
57	浴・長池遺跡	高松市林町	集 落 跡	弥生 ～近世	高松東道路建設	国 (建設省)
58	丸 亀 城 跡	丸亀市一番丁	城 郭	近世	石垣修復工事	市
59	井 手 東 遺 跡	高松市伏石町	集 落 跡	弥生	高松東道路建設	国 (建設省)
60	道音寺遺跡 天神山麓遺跡	三豊郡豊中町笠田	社 寺 跡	奈良	遺跡詳細分布調査 (団体営ほ場整備)	町
61	曼荼羅寺遺跡	善通寺市吉原町	包 含 地	弥生	宅地造成	業 者
62	天神岡1・2号塚	香川郡香南町西庄	その他の 墓	中世	団体営ほ場整備	町
63	弘福寺領讃岐国山田郡 田図比定地遺跡	高松市林町	荘 園	古代	学術研究	市
64	西長尾城跡	綾歌郡綾歌町岡田	山 城	中世	森林公園整備	町
65	宇閑神社古墳	綾歌郡綾歌町栗熊 西	古 墳	古墳	社務所改築	〃

対 処	調			査			
	調査主体	調査面積	調査期間	担 当 者	費用負担	文化財保護法	調査後の措置等
確認調査	市 教 委	(m ²) 43	2.7.18 ～7.22	市教委職員	市 教 委	98条の2	古墳等確認され ず立会調査実施
〃	町 教 委	652	2.7.9 ～9.15	町教委職員	国・県・町	57条の2 (98条の2)	現状保存
〃	市 教 委	1,030	2.7.18 ～3.3.8	市教委職員	市 教 委	98条の2	3,000m ² 記録保存
〃	〃	36	2.7.23 ～7.26	〃	〃	〃	工事実施
事前調査	〃	3,750	2.6.1 ～10.24	〃	国 (建設省)	57条の3 (98条の2)	工事実施
確認調査	町 教 委	1	2.10.15 ～10.19	町教委職員	国・県・町	〃	工事実施
事前調査	市 教 委	223	2.10.12 ～11.29	市教委職員	業 者	57条の2 (98条の2)	工事実施
確認調査	〃	50	2.10.1 ～10.12	〃	市 教 委	98条の2	850m ² 記録保存
〃	〃	20	2.10.15 ～10.18	〃	〃	〃	工事実施
事前調査	〃	850	2.11.7 ～12.10	〃	神 社	57条の2 (98条の2)	〃
〃	〃	3,000	2.11.5 ～3.2.28	〃	市	57条の3 (98条の2)	〃
確認調査	町 教 委	150	2.12.6 ～12.26	町教委職員・県 教委職員指導	町 教 委	98条の2	遺跡整備
〃	〃	20	2.11.21 ～12.10	〃	〃	57条の5 (98条の2)	〃
事前調査	〃	7,420	2.11.21 ～3.3.15	〃	国 (建設省)	57条の3 (98条の2)	工事実施
確認調査	市 教 委	132	2.10.1 ～3.3.31	市教委職員	国・県・市	国庫補助事業	遺跡整備予定
事前調査	〃	2,200	2.12.25 ～3.2.22	〃	国 (建設省)	57条の3 (98条の2)	工事実施
〃	〃	650	2.12.10 ～3.3.31	町教委職員	〃	98条の2	協議中
〃	市 教 委	30	3.2.10 ～2.11	市教委職員	市 教 委	〃	工事実施
〃	町 教 委	5	3.1.14	町教委職員・県 教委職員指導	〃	〃	15m ² 記録保存
確認調査	市 教 委	450	3.2.14 ～3.31	市教委職員	国・県・市	〃	研究活用
—	—	—	—	—	—	57条の3	確認調査実施予定 厳重注意
—	—	—	—	—	—	57条の2	〃

平成2年度埋蔵文化財保護行政，調査の概況〔現地踏査，立会調査の概況〕

番号	位置	原因	事業主体	事業面積 (㎡)	調査内容	調査の原因
1	小豆郡土庄町	公園整備	県	8,000	分布調査	高見山城跡が所在
2	小豆郡池田町	砂防ダム建設	〃	2,100	〃	信谷遺跡が隣接
3	小豆郡内海町安田	復旧治山事業	国 (営林署)	360	〃	釘ヶ谷遺跡が隣接
4	小豆郡土庄町琴塚	県道拡幅	県	500	〃	琴塚東浦遺跡が隣接
5	大川郡寒川町石田東	学校建設	〃	180	立会調査	石田高校々庭内遺跡が所在
6	坂出市府中町他	測量標設置	国 (国土地理院)	50	〃	史跡城山が所在
7	仲多度郡琴南町備 中地	県道拡幅	県	4,000	〃	備中地遺跡が隣接
8	木田郡三木町池戸～ 大川郡津田町鶴羽	高松東道路	国 (建設省)	495,000	分布調査	大規模事業
9	高松市林町	合同宿舍新築	国 (四国財務局)	200	立会調査	空港跡地遺跡が隣接
10	坂出市神谷町	県道改修	県	1,200	〃	牛子山遺跡が隣接
11	仲多度郡多度津町 山階	〃	〃	350	分布調査	中東古墳群が隣接
12	坂出市文京町	学校建設	〃	608	立会調査	散布地（周知）が所在
13	観音寺市原町	国道改良	〃	600	〃	堂之岡遺跡が隣接
14	坂出市川津町	河川改修	〃	50,000	分布調査	元結木遺跡が隣接
15	丸亀市郡家町	ため池改修	〃	50	立会調査	宝幢寺跡が所在
16	小豆郡内海町片城	急傾斜地崩壊対策 事業	〃	825	分布調査	殿山遺跡が隣接

平成2年度埋蔵文化財保護行政，調査の概況（新発見の遺跡）

番号	位置	原因	発見年月日	種類
1	坂出市川津町	畦畔改修	平成2年6月2日	集落跡
2	仲多度郡多度津町山階	住宅改築	平成2年6月25日	〃
3	高松市三谷町竹林	堤防改修	平成2年12月25日	古墳
4	大川郡大川町富田東	分布調査（大規模事業）	平成3年1月21日	〃

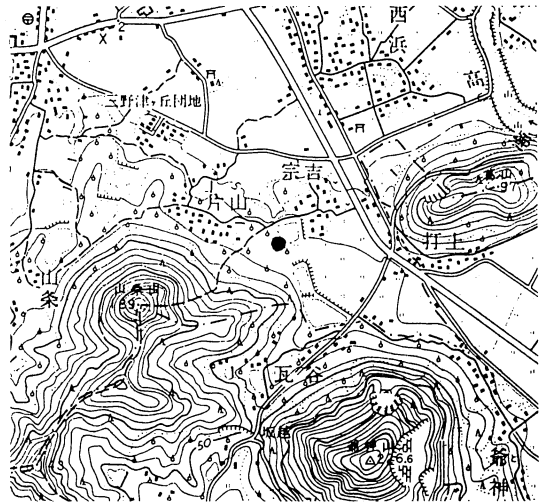
調査主体	調査期間	担 当	調 査 結 果 の 概 要
県 教 委	2. 5. 23	県教委職員	郭等の施設は確認されず
〃	2. 5. 23	〃	遺物の散布認められず
〃	2. 5. 29	〃	〃
〃	2. 8. 24	〃	〃
〃	2. 8. 30	〃	遺構・遺物, 確認されず
〃	2. 9. 7	〃	〃
〃	2. 10. 5	〃	〃
〃	2. 10. 22 ~2. 10. 26	〃	6箇所について試掘調査予定
〃	3. 1. 7	〃	遺構・遺物, 確認されず
〃	2. 4. 25	〃	遺構・遺物, 確認されず かつて低湿地であったと考えられる
〃	2. 5. 21	〃	遺物の散布認められず
〃	2. 7. 10	〃	遺構・遺物, 確認されず
〃	2. 8. 9	〃	〃
〃	2. 11. 7	〃	試掘調査予定
〃	2. 11. 20	〃	遺構・遺物, 確認されず
〃	2. 8. 24	〃	遺物の散布認められず

出 土 品	文化財保護法	指 導 事 項
弥生土器, サヌカイト片	57条の5	遺構に影響を与えず 市教委職員立会
弥生土器	〃	〃
なし	57条の6	〃
〃	57条の5	現状保存を町教委に要請

宗吉 窯 跡

1. 所在地 三豊郡三野町吉津宗吉甲157・145番地
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年7月6日,11月16日～11月19日
4. 調査面積 23m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
6. 調査に至る経過

香川県農林部土地改良課を事業主体とする平成2年度の三野西部地区県営ほ場整備業（農道建設）に伴い、香川県教育委員が国庫補助を受けて実施した遺跡詳細分布調査でその所在を確認した瓦窯跡である。調査は2次



第1図 遺跡の位置

にわたって実施した。第1次調査は農道建設用地にかかる皿池南西部の東面斜面部を対象に、窯跡の所在確認を目的に行った。第2次調査は皿池南西隅の池底に広がると推定される灰原の内容確認を主目的に行った。

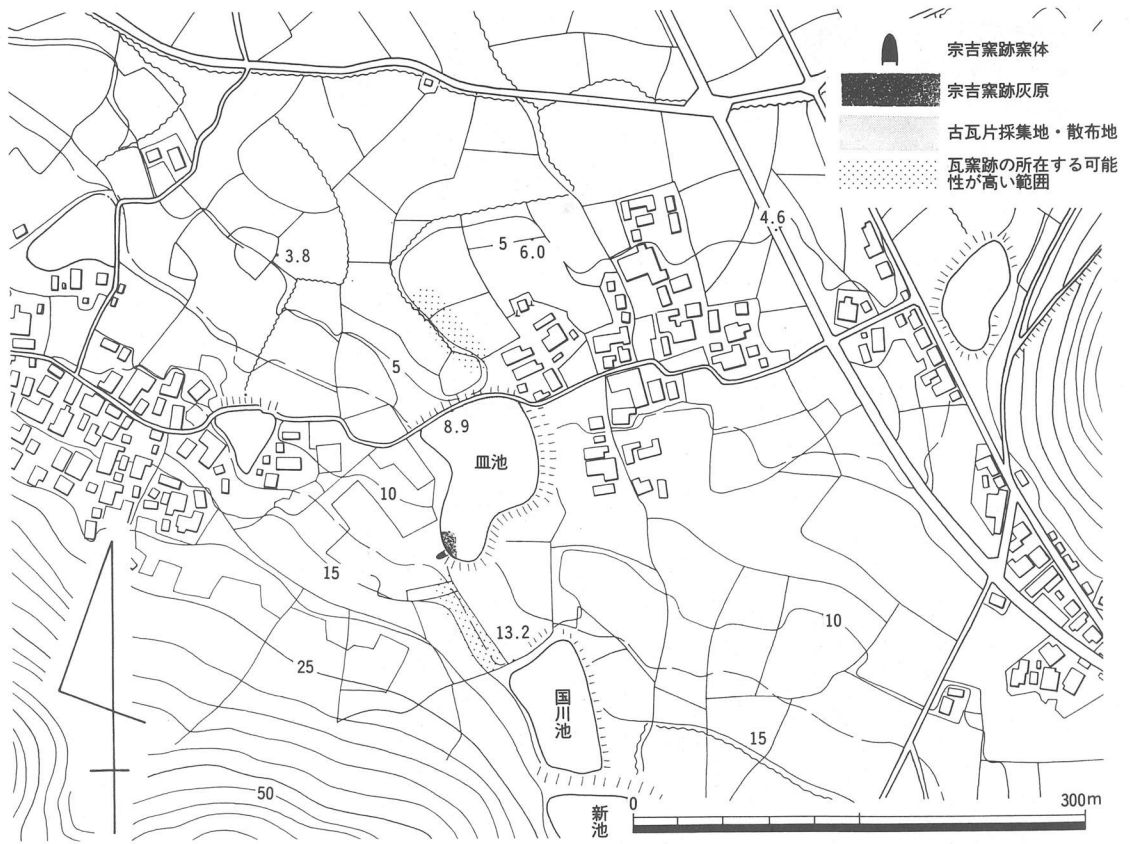
7. 調査結果の概要

第1次調査では甲157番地の山林斜面の中位に設定したトレンチの地表下10cm程で、黄白色粘質土に構築した窯体の一部を発見した。それは、窯体の一方の側壁と落盤した天井部とみられ、窯体の外側のためかある程度固いが赤味を帯びややもろい。高さ20cm程発掘した側壁は内側にやや傾く。窯体推定規模は長さ3m以上、幅1.2m以上、煙道部・焚口は未確認。排水溝は未検出。

第2次調査では皿池池底の遺物の散布状況や窯体の位置、池の水位等を勘案して、池の南岸と西岸寄りに4箇所トレンチを設定した。池底の基本的な土層堆積は池底下30～60cmの上層と黒色土（厚5～20cm、焼土粒、炭化物混）などの下層に大別され、上層は2次堆積土、下層は灰原に相当すると考えられる。遺物は上下層の別はなく青灰色で固いスサ混の窯壁片や赤味を帯びた窯体片が出土し、瓦類は上層から四重弧文軒平瓦片、平瓦片等が少量、下層からは平瓦片・丸瓦片等が多数出土した。

8. まとめ

大正時代に開墾中に発見され、復原径約18cmの八葉復弁蓮花文軒丸瓦が出土した宗吉窯跡であるが、その内容等は不明であった。今回の調査で確認した瓦窯跡は、軒丸瓦出土のものか否かは疑問が残るものの、構造は窰窯で、その年代は白鳳時代に遡る可能性がある。また周辺部の踏査や聞き取りの結果、同一の谷筋に面して他に何基かの瓦窯跡の所在が推定される。



第2図 宗吉窯跡周辺図



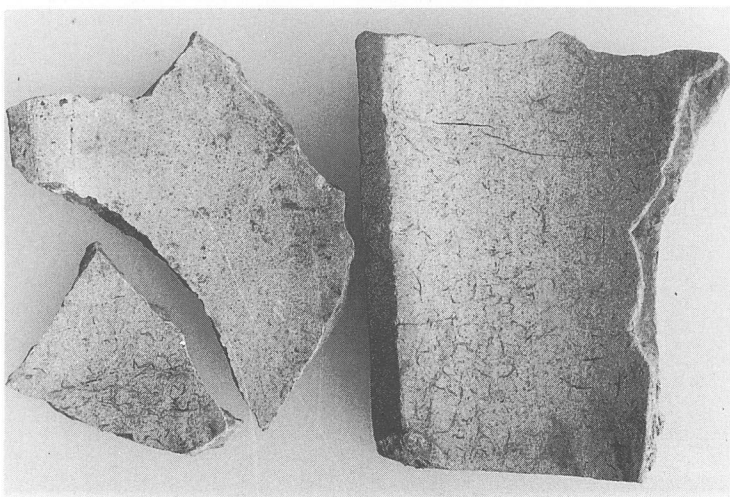
第3図 宗吉窯跡遠景



第4図 窯体検出状態



第5図 灰原検出状態



第6図 灰原出土古瓦

月 信 遺 跡

1. 所在地 善通寺市碑殿町月信
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年9月21日～3年2月13日
(実働10日間)
4. 調査面積 485m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
同技師 北山健一郎
6. 調査の原因 県営畑地帯総合整備事業
(善通寺西部地区, 碑殿農道建設)
7. 調査結果の概要

事業予定地は、弥谷寺の東南約1kmの比高差約20mの低丘陵の山上から斜面にかけての部分である。

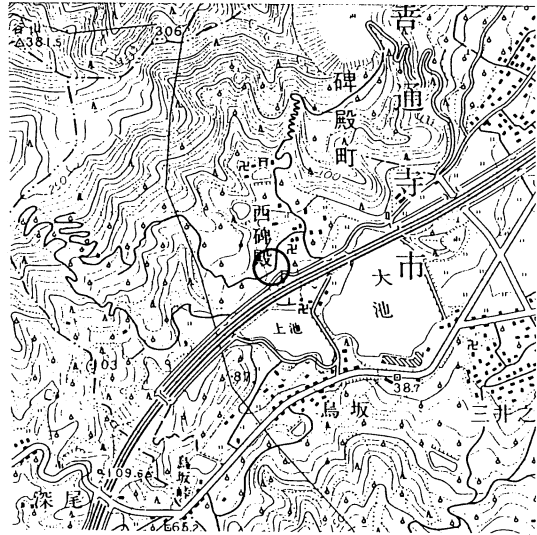
標記の事業に先立ち、試掘調査を平成2年9月21日～10月3日(実働5日間)に行った結果、21箇所のトレンチのうち、8箇所で見積もしくは遺物が確認された。したがって、遺構・遺物の確認された山上部分を中心に485m²について工事に並行して調査を行った。

調査の結果、現地表下約30cmで地山の軟岩盤を切り込んだ溝状遺構1条、ピット6個、竪穴住居跡1棟を検出した。竪穴住居跡は1辺約4mの隅丸方形を呈し、床面に6個のピットを検出した。埋土中から出土した土器はいずれも弥生土器であるが、1点だけ、須恵器片が出土した。ピット中からも弥生時代の土器が出土している。また、近世のものと思われる土坑も1基検出したが、甕の下半分が残存していた。

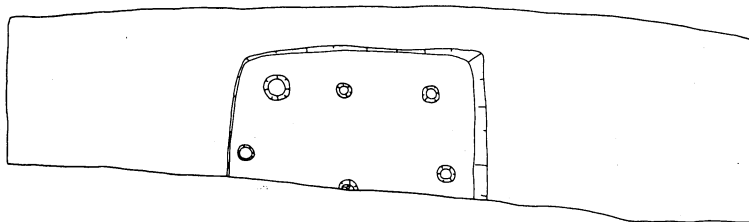
8. まとめ

今回の調査で、当該地周辺に弥生時代から古代にかけての集落が存在していたことが明らかになった。標記の事業は来年度も引き続き実施される予定であり、来年度予定地のうち、1,180m²につき、事前調査を実施する予定であり、より詳細な遺跡の内容が把握できるものと思われる。

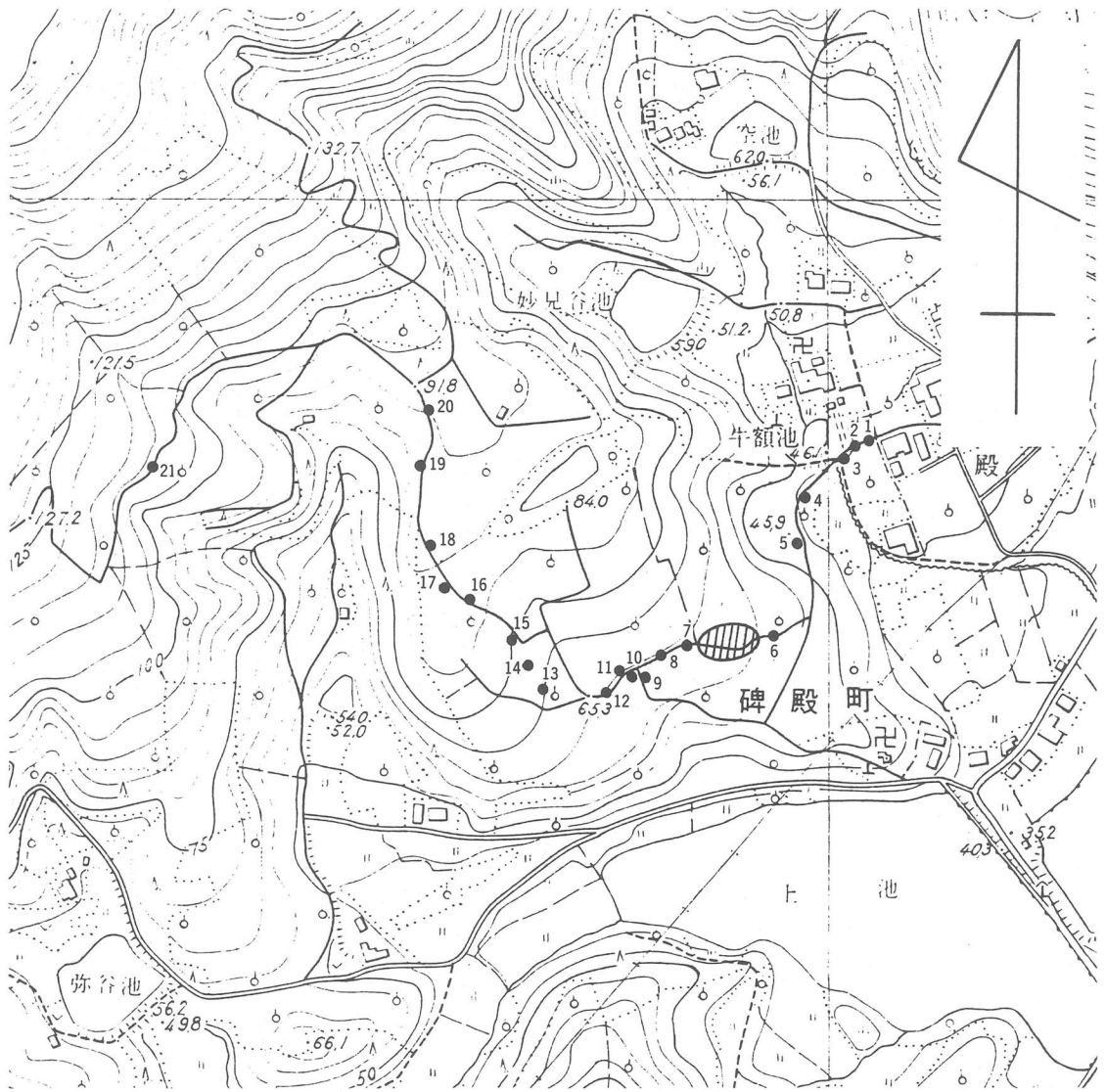
(北山)



第1図 遺跡の位置



第2図 SH01平面図



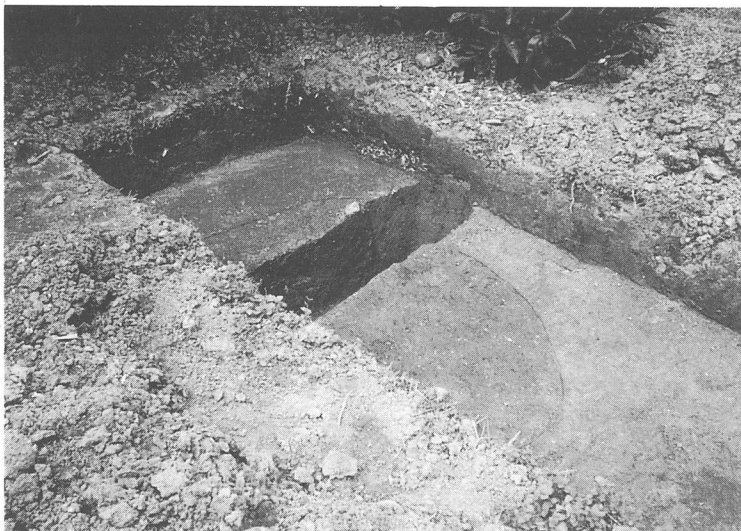
第3図 試掘トレンチ及び竪穴住居跡検出地点 (1/5,000)



第4図 遺跡遠景 (南から)

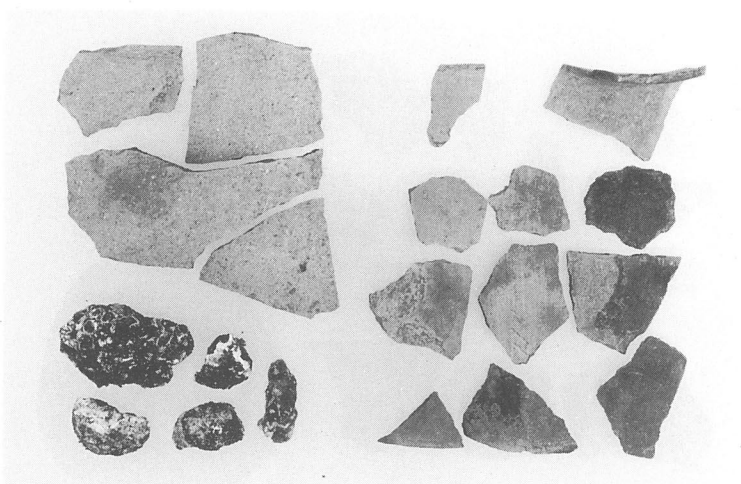
第5図 トレンチ⑫ (765-1
番地) 土坑検出状態

土坑は1.3×0.75m
の不整形、深0.35m
以上



第6図 トレンチ⑫ 土坑
出土遺物

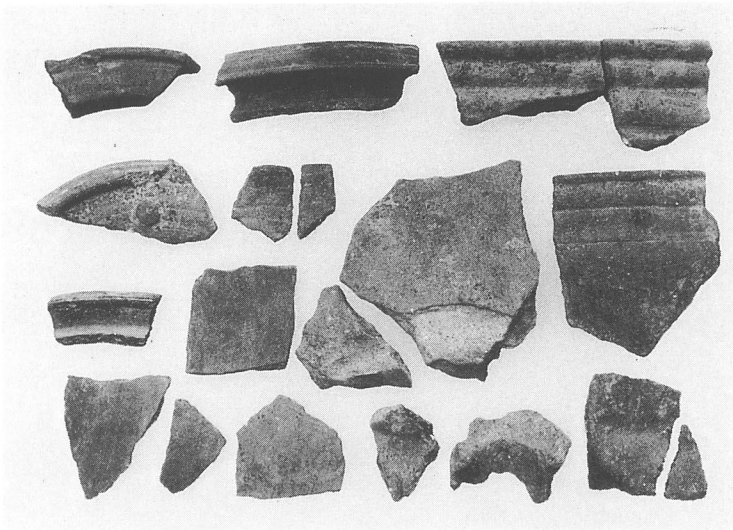
弥生土器のほかにカ
キ・アサリ・ヘビガ
イ等の貝類が出土し
た



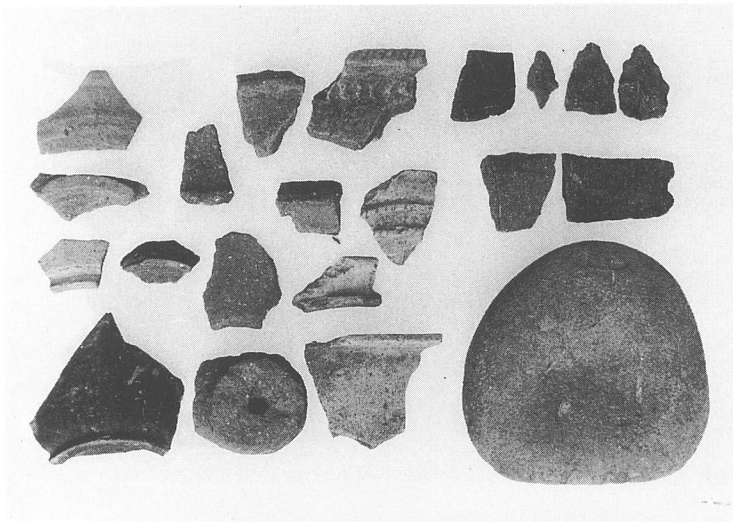
第7図 トレンチ⑨、⑫
出土遺物

右下隅の壺口縁部片
はトレンチ⑨(754-1
番地)出土、他はト
レンチ⑫出土

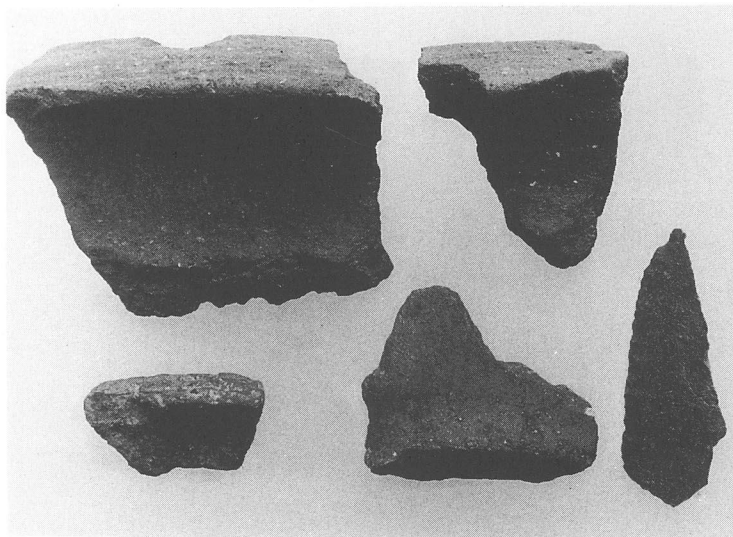




第8図 657・658番地出土
遺物
右上隅の口縁端長12.5m



第9図 754番地採集遺物
右下の凹石12.5×12.5cm

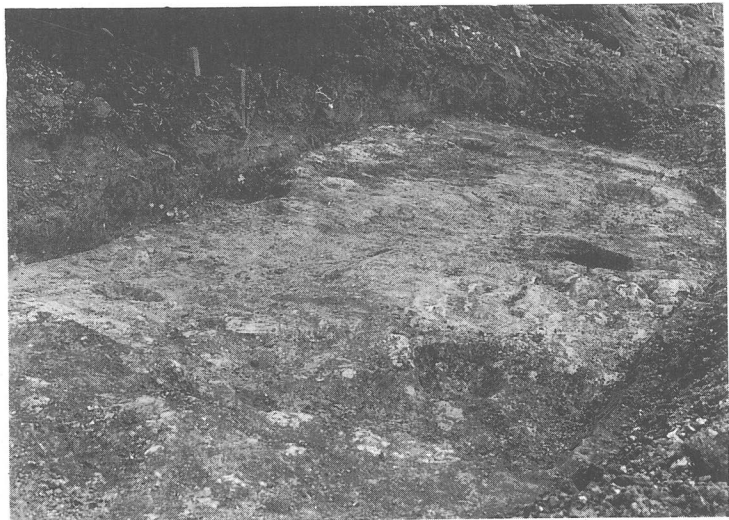


第10図 752-1番地採集遺物
右下隅の石器長9cm

第11図 SH01全景 (西より)



第12図 SH01全景 (南西より)



第13図 SD01他全景 (西より)



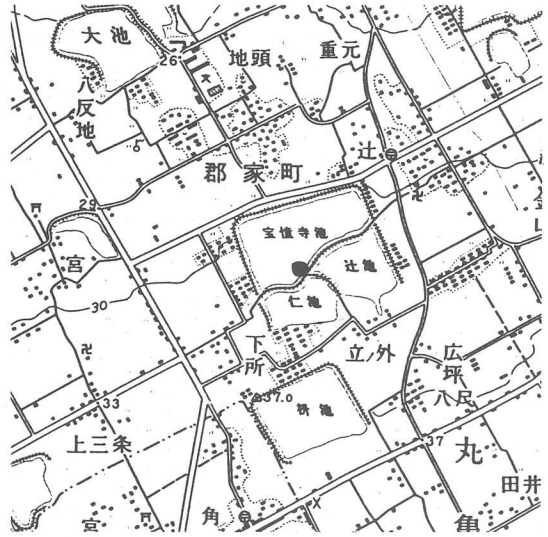
宝 幢 寺 跡

1. 所在地 丸亀市郡家町325番地
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年11月20日
4. 調査面積 15m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
6. 調査に至る経過

香川県農林部土地改良課を事業主体とする宝幢池におけるため池整備事業については、平成2年度の公共土木工事照会で把握した。工事の場所、内容は、上池から下池に通じる樋管改修で、宝幢寺池池底に残る土壇にかかる位置である。土地改良課と遺跡の保存等について協議し、遺跡の状況と工事の内容等を勘案した結果、立会調査を実施した。

7. 調査結果の概要

立会調査では下池側の樋管導水路の掘削工事中において池底下20～40cmから径（一辺）1m弱の石と粗悪なモルタル製凹型溝を組合わせた古い導水路が発見された。これらの石は加工調整を施し、平坦面が形成されており、宝幢寺の建物礎石の一部と考えられる。



第1図 遺跡の位置



第2図 塔心礎と転用礎石

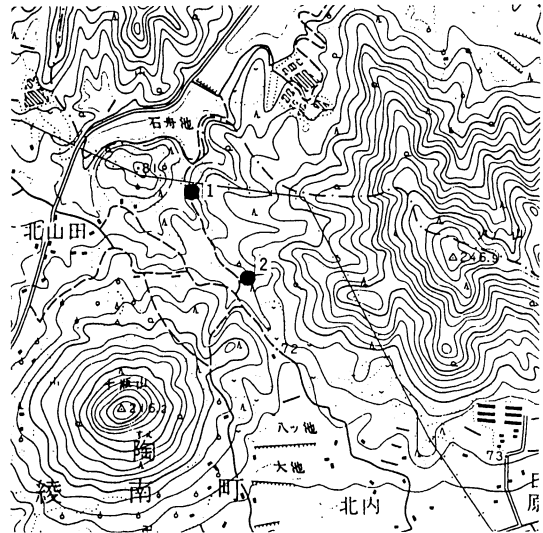


第3図 樋管導水路の側石に転用された礎石

かめ焼谷 1号窯跡・すべっと 4号窯跡

1. 所在地 綾歌郡綾南町陶之陶1503-3番地外
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年7月23日～8月8日
4. 調査面積 85m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
6. 調査に至る経過

十瓶工業団地造成事業の具体化に伴い、事業予定地内に所在する県指定史跡すべっと(1号)窯跡を含む8基の須恵器窯跡の保存等について、昭和63年度以来、事業主体の香川県土地開発公社および香川県経済労働部産業立地課と協議を重ねて来た。平成元年度にはす



第1図 遺跡の位置 1 かめ焼谷1号窯跡 2 すべっと4号窯跡

べっと1号窯跡、かめ焼谷2・3号窯跡の3基の窯跡等の内容確認のため試掘調査を実施し、その後の協議の結果、これらの3基は造成区域外に現状保存されることになった。しかし、昭和57・58年に一部発掘調査が行われた標記の2基については協議の結果、平成2年度に先の調査における未調査部分を対象に調査を行った。

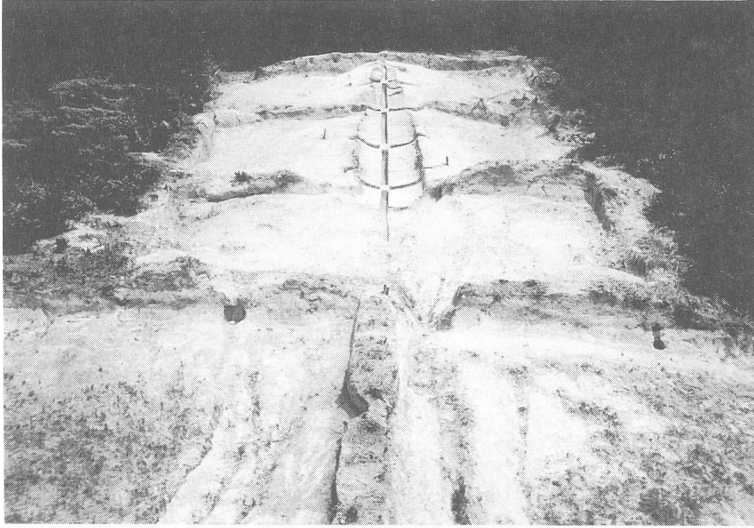
7. 調査結果の概要

(1) かめ焼谷1号窯跡 先の調査で未調査の灰原の発掘と窯体のたち割り調査を行った。発掘対象の灰原は長さ約12m、幅約1.50m、厚さは約20cm。坏、壺、甕等の破片が28ℓ入整理箱3箱出土し、灰原下からピットが3穴発見された。窯体たち割り調査では灰白色還元層と赤色酸化層の重なりが視察され、花崗岩の地山を掘下げ、そのまま窯として使用したことが、また窯の先端部では床を貼っていることが確認された。

(2) すべっと4号窯跡 窯体のたち割り調査を行った。先の発掘調査では窯体床面の傾斜が中程で変わることなどから2度以上にわたり使用されたことが推測されたが、今回の調査でこれを裏付ける事実が確認され、傾斜の緩い窯を廃棄した後、ほぼ重なる位置に傾斜の急な窯を構築したと考えられる。また、窯床の形状が傾斜変換地点のやや下方で異なり、上方は不規則な亀甲状を程した貼床で、下方はかめ焼谷1号窯とほぼ同様の地山還元であるが、これは地山の土質の違いに対応するものとみられる。

8. まとめ

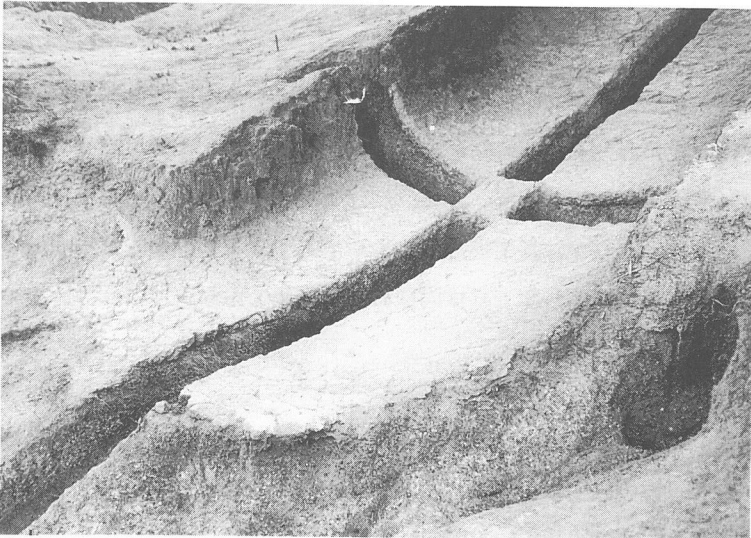
今回の調査で2基の須恵器窯のほぼ全容が明らかになり今後の綾南町陶地区の窯跡群の全体像を解明する貴重な資料が得られた。なおかめ焼谷1号窯跡の調査概要は別途刊行の予定である。



第2図 かめ焼谷1号窯跡
全景

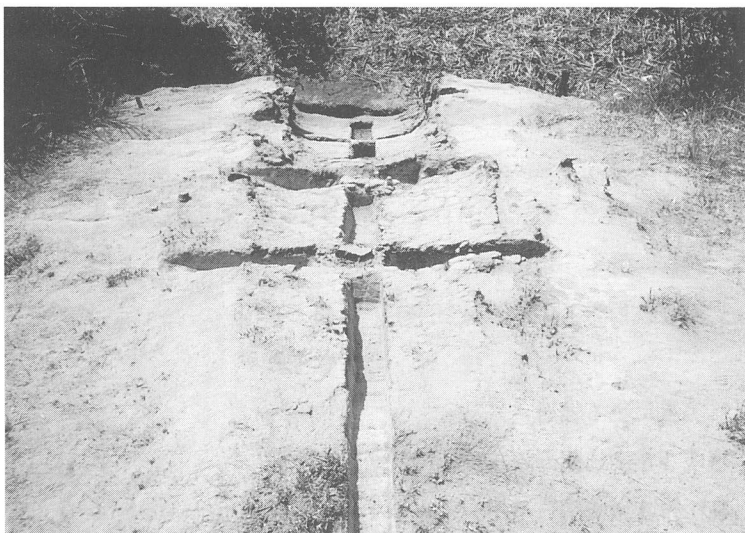


第3図 かめ焼谷1号窯跡
煙道部細部



第4図 かめ焼谷1号窯跡
焚口・燃烧部細部

第5図 すべっと4号窯跡
全景 (煙道部から)



第6図 すべっと4号窯跡
窯体細部



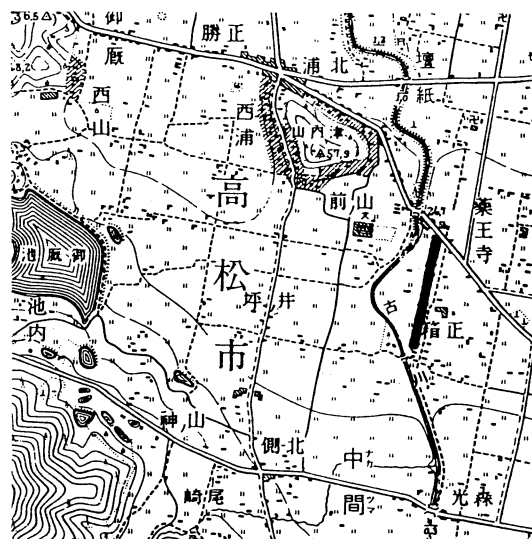
第7図 すべっと4号窯跡
窯体たち割り細部



正箱遺跡・薬王寺遺跡

1. 所在地 高松市檀紙町字正箱・薬王寺
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年11月8日～3年2月16日
4. 調査面積 1,854m²
5. 調査担当者 文化行政課主任技師 岩橋 孝
技師 北山健一郎
6. 調査に至る経過

平成3年度末開通予定の四国横断自動車道（高松～善通寺間）の建設にあわせて、香川県土木部道路課は県道山崎御線道路改良事業を計画した。建設規模は幅約30m、延長約1.3kmで、県道としては大規模なものである。



第1図 遺跡の位置

これに伴う埋蔵文化財の保護については、昭和63年度以来協議を重ねたが、用地買収等の諸条件が整い試掘調査に着手出来たのは平成2年11月上旬のことである。平成2年度には3次にわたって調査を行ったが、各次の調査の期間・対象・実掘面積は以下のとおりである。

第1次調査 平成2年11月8日～11月13日 古川以北の延長約230mの区間の試掘調査 320m²

第2次調査 平成3年1月7日～2月16日 上記区間の両側部の事前調査 1,080m²

第3次調査 平成3年1月16日～1月18日 1次調査の対象地以外の約840mの区間の試掘調査 454m²

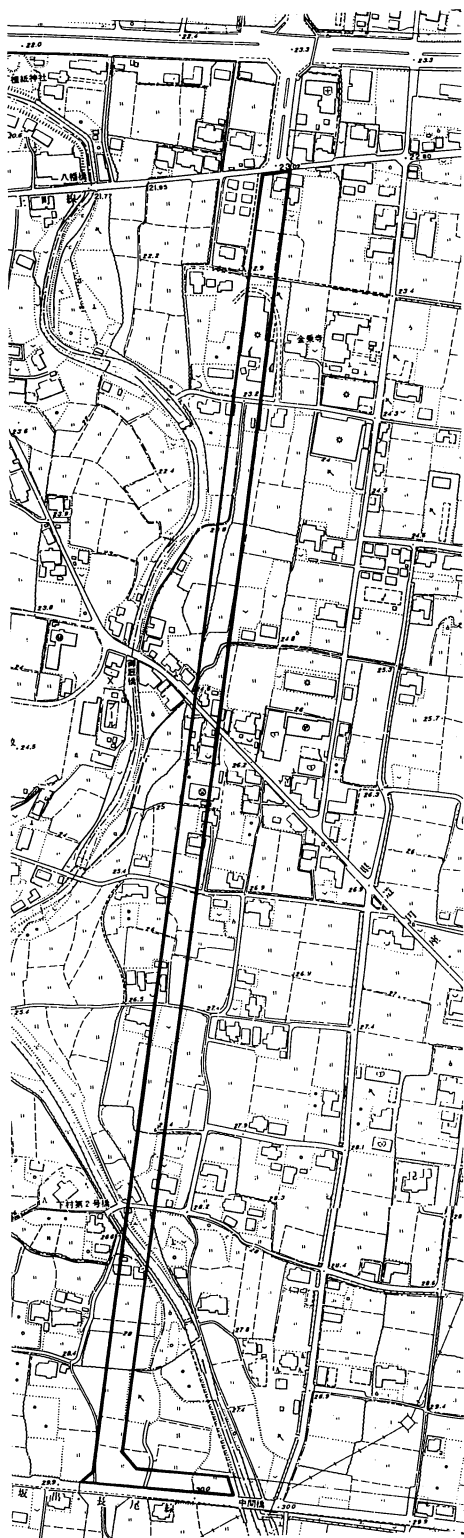
7. 調査結果の概要

第1・3次の調査の結果、古川以北の延長約140mの区間で奈良～平安前期頃の集落跡（正箱遺跡）とその北側延長約270mの区間で中近世の集落跡（薬王寺遺跡）の所在が確認された。

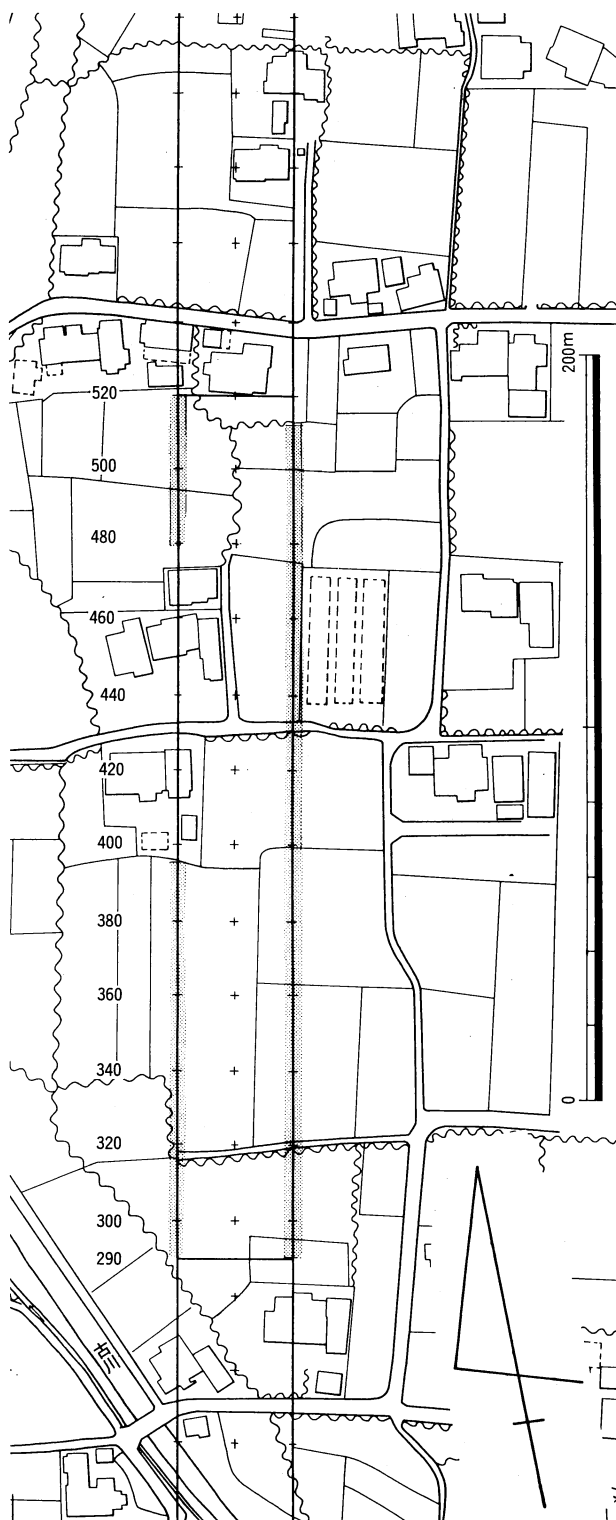
第2次調査の正箱遺跡の調査では掘立柱建物跡10棟以上の外、土坑、溝（水路）・流路等多数の遺構が発見された。各建物跡の柱筋はほぼ揃い、相互間の規則性が認められる。また遺跡周辺の条里制を反映する地割とほぼ重なり、平行する溝・流路もある。遺物は須恵器、土師器、緑釉陶器、黒色土器、製塩土器、陶硯、飯蛸壺、鉄刀子等が出土し、なかでも厚手で尖底深鉢形の製塩土器は集落跡の性格付の有力な手懸りの一つである。

8. まとめ

高松平野の西部、香東川の西に展開する台地・段丘の下位面に立地する遺跡の調査例は少ない。従来、歴史地理学の方法により交通路や条里制の研究が蓄積されてきた。平成3年度に継続して行われる予定の発掘調査により当地の開発の歴史の一端が明らかになるであろう。（岩橋）

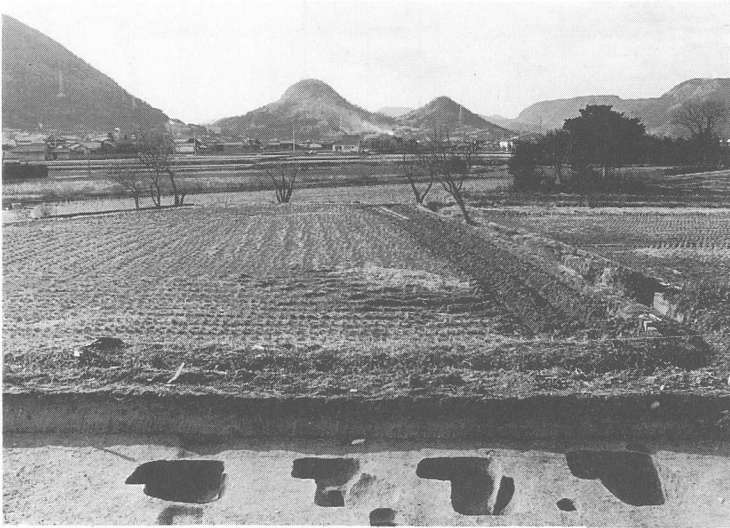


第2図 調査対象地位置図
(約 1 : 2000)



第3図 第2次調査位置図

第2次調査



第4図 掘立柱建物跡と
伽藍山
(西330付近, 東から)



第5図 推定条里制坪境の
現代水路と古代水路
跡 (西320付近, 北
西から)



第6図 掘立柱建物跡と
水路跡
(東360~380, 北から)
写真中央の水路跡は
推定条里制坪境のほ
ぼ中間 (東375付近)
に位置する

第7図 東380~400検出の
遺構（北西から）



第8図 東390~400の
遺構掘削作業風景
（南から）

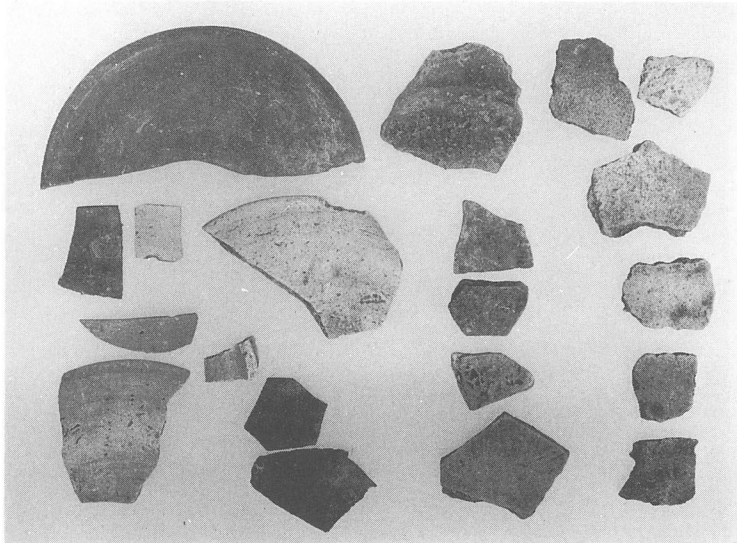
手前の土坑は長約4
m、幅約1.5m、深25
cm程の大きさ
土坑内から土師器・
黒色土器、飯蛸壺、
須恵器、製塩土器が
概ね1：4：95の割
合で28ℓ入り整理箱
2箱分の遺物が出土
した



第9図 東500付近検出の
井戸跡（南西から）

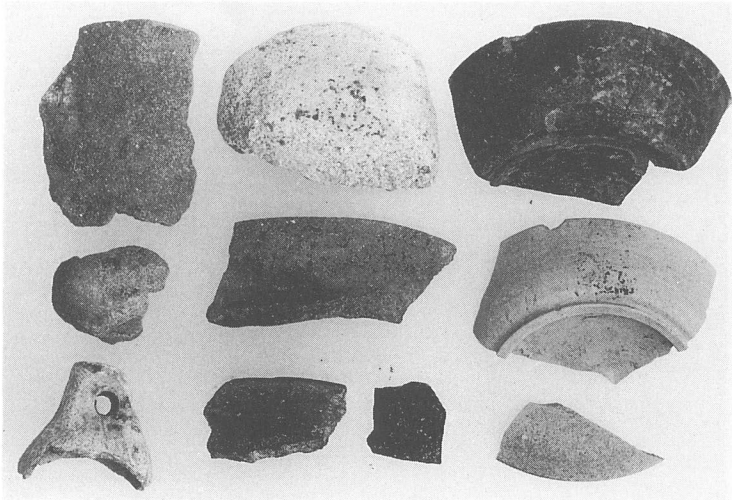


第2次調査



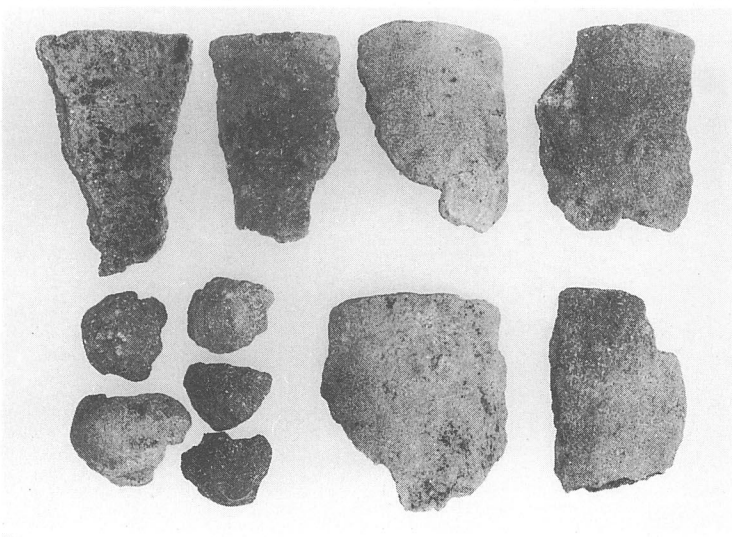
第10図 東375付近検出の
水路跡出土遺物

左列 須恵器
中列 土師器ほか
右列 製塩土器
左上の坏蓋径15cm



第11図 東390～395検出の
土坑出土遺物

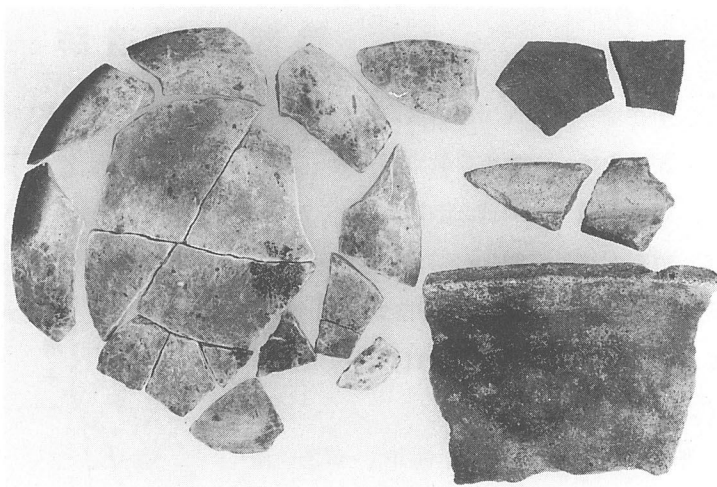
左列 製塩土器・飯蛸壺
中列 土師器・黒色土器
右列 須恵器
右上 坏口縁端幅13.5cm



第12図 東390～395検出の
土坑出土製塩土器

粗製厚手尖底深鉢形の
製塩土器
左下5点は底部破片
左上口縁端幅7.5cm

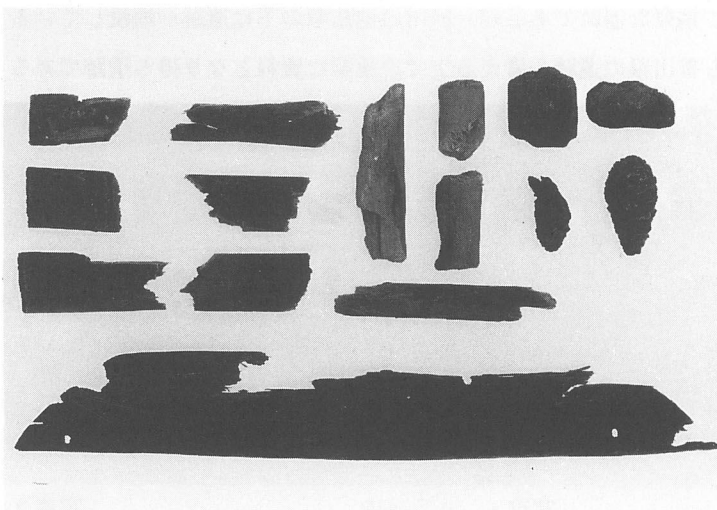
第13図 東400付近検出の
土坑出土遺物
右上の2点は須恵器
他は土師器
左は土師器の盤
明るい橙色系の色調
で口縁部外面の一部
に黒斑，同内面に放
射状の暗文が施され
る



第14図 東・西480付近検
出の水路跡出土遺物
左下の土釜の脚長
11.5cm



第15図 東500付近検出の
井戸跡出土木製品等
下および左の7点は
曲物部材？下はその
底板とみられ長33.5
cm 両端近くに方形
の釘穴をあける
右上は赤漆塗木片
その下2点は松ボツ
クリ



鴨部川田遺跡

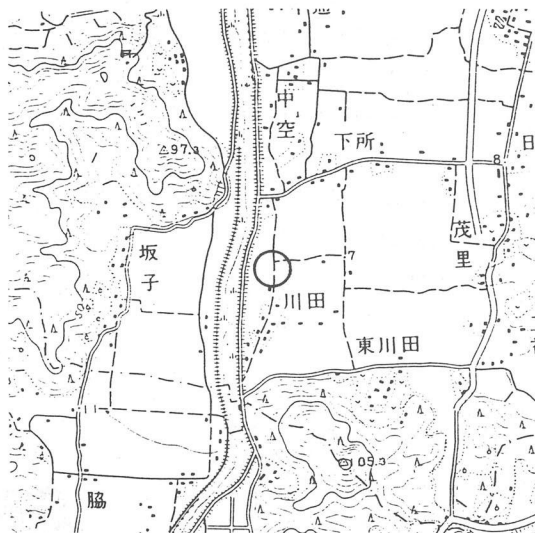
1. 所在地 大川郡志度町鴨部
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年7月3日～7月5日
4. 調査面積 324m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 北山健一郎
6. 調査の原因 一般国道11号高松東道路
7. 調査結果の概要

基本的な土層の堆積は、耕作土・黄色砂層・青灰色砂層・青灰色及び暗灰色の粘質土・茶褐色砂混粘質土、それに青灰色粗砂層である。このうち、黄色、青灰色の砂層は鴨部川の氾濫による洪水砂層と思われる、湧水が激しい。

また、茶褐色砂混粘質土は弥生時代前期の土器を多量に包含する遺物包含層である。トレンチを13箇所設定したうち、7箇所のトレンチにおいて、この包含層を除去した面に溝状遺構、土坑、ピット等の遺構を検出した。埋土は包含層と同じ土層で、弥生時代前期の土器が出土している。出土した弥生時代前期の土器はほとんどが壺、甕の破片であり、総量は28ℓ入りコンテナ約1.5箱である。磨滅も少なく出土状態は比較的良好である。

8. まとめ

これまでは、東讃地域において、弥生時代前期の遺跡としては、大内町落合遺跡が知られるのみであり、高松市天満遺跡との間に大きな空白があった。本遺跡はその空白を埋める意味において重要な遺跡であるが、河川の氾濫原の下に遺跡が埋没しているというその特異な立地においても香川県の遺跡を考える上での重要な資料となり得る遺跡であるといえよう。



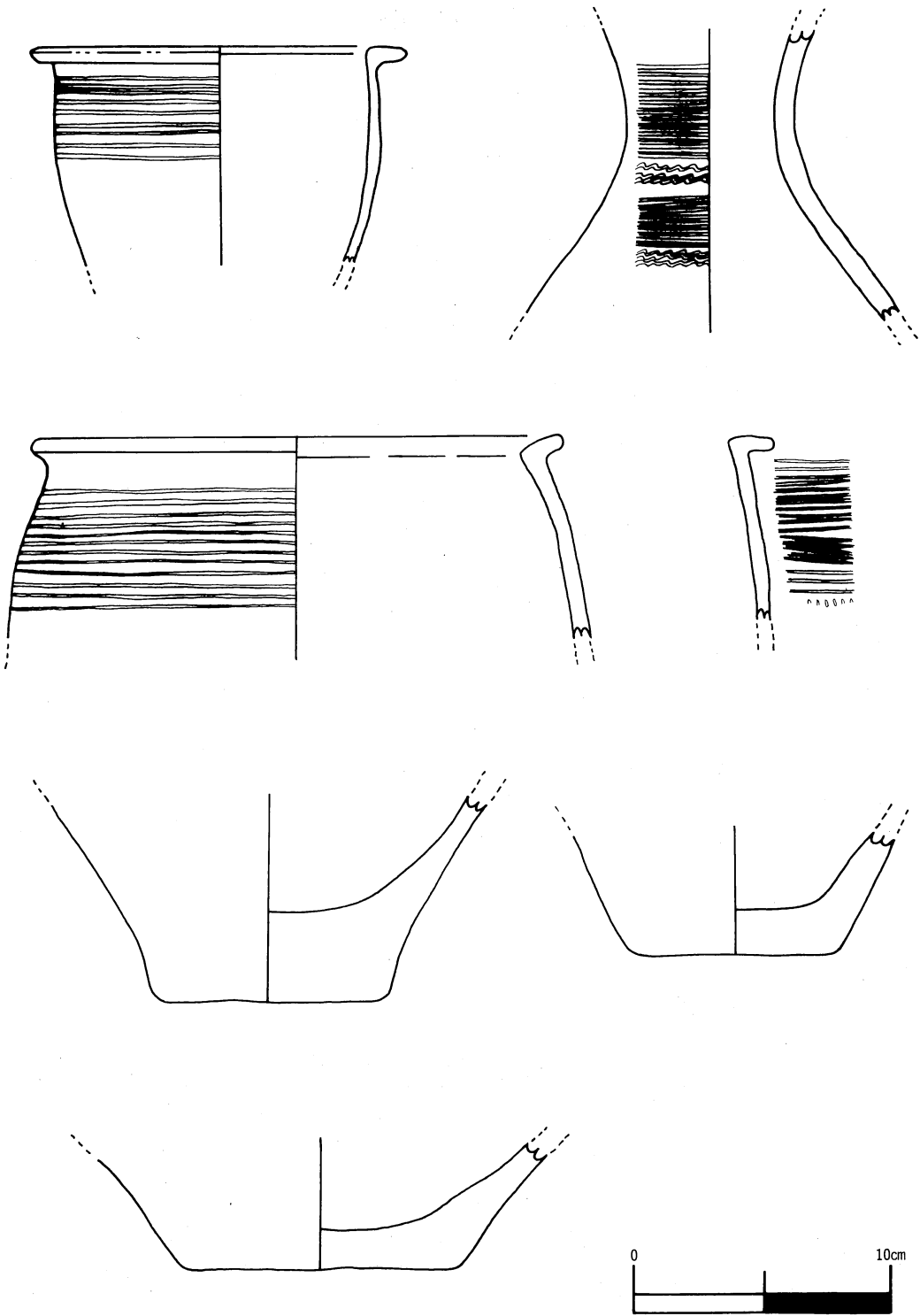
第1図 遺跡の位置



写真1 土層断面



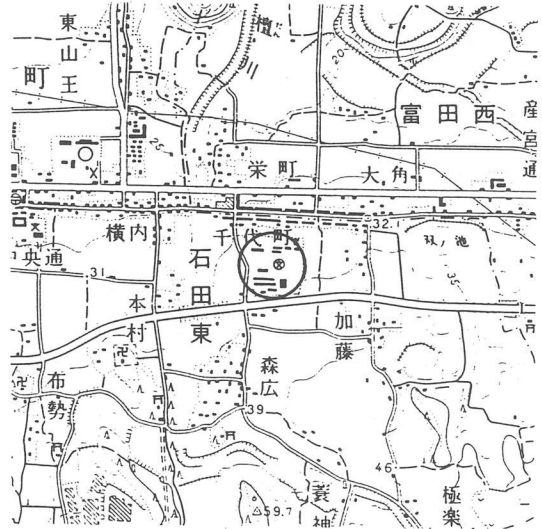
写真2 溝状遺構検出状況



第4图 出土土器实测图

石田高校々庭内遺跡

1. 所在地 大川郡寒川町石田東甲1065
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成2年7月11日
4. 調査面積 13m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 北山健一郎
6. 調査の原因 石田高校土木施工実習室新築工事
7. 調査結果の概要



第1図 遺跡の位置

本遺跡は、昭和44年から56年にかけて計4回の発掘調査が行われ、弥生時代後期及び古墳時代後期ごろの集落跡であることがわかっている。したがって、今回の工事予定地内及びその周辺に遺構・遺物ともに検出される可能性が非常に高かったが、昭和10年代の果樹園の植栽（柿木）によって現地表下約2mまで攪乱を受けており、工事予定地周辺に設定したトレンチからは、遺構・遺物ともに検出されなかった。また、工事予定地外で1本トレンチを設定したところ、果樹園外であつたらしく、現地表下約1mのところまで弥生土器、須恵器、サヌカイト片を含む厚さ約20cmの包含層を検出した。

8. まとめ

調査結果から見て工事予定地内にも果樹の植栽による攪乱が及んでいるものと思われたが、果樹の植栽は線的な掘削によるものであり、部分的に包蔵地が残っている可能性があるため平成2年8月31日に工事に際して立会調査を行った。

その結果、建物の基礎になる部分にはやはり、果樹の植栽による攪乱が及んでいた。よって工事範囲内には、埋蔵文化財は所在しないと判断される。



写真1 調査風景

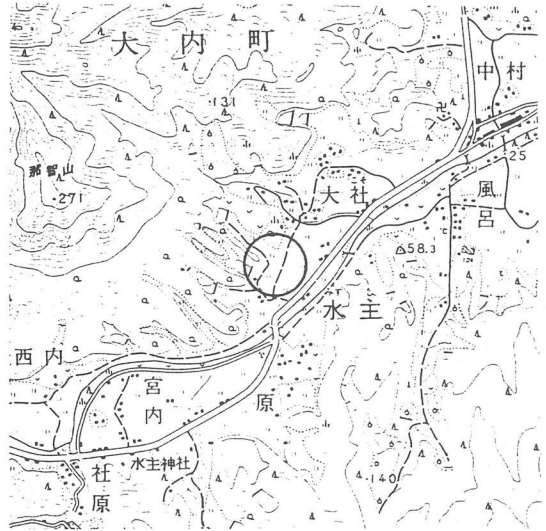


写真2 土層断面

おお こそ 大 社 遺 跡

1. 所在地 大川郡大内町水主大社
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 (第1次)平成2年8月9日～8月10日
(第2次)平成2年11月13日～11月14日
4. 調査面積 149m²
5. 調査担当者 文化行政課技師 北山健一郎
6. 調査の原因 県営ほ場整備事業
7. 調査結果の概要

調査対象地は、虎丸山と那智山に挟まれて平野部に流れる与田川の上流にあたり、周辺には、岩瀬庵古墳、楠谷古墳や弥生時代後期の壺棺が発見された高原遺跡が存在する。



第1図 遺跡の位置

事業予定地は、ほぼ全域が周知の埋蔵文化財包蔵地である大社遺跡（旧石器～弥生の散布地）であったが、調査の結果、対象地中央を南北に走る里道より東側は、与田川の氾濫原であることが確認され、西側についても、遺構・遺物ともに検出されなかった。しかしながら、北側の最高所に設定されたトレンチより弥生土器、土師器を含む茶褐色砂混粘質土が検出され、その下層より遺物を含まない不定形土坑が1基検出された。

8. まとめ

以上より、ほ場整備事業対象地のうち、大部分は遺跡等の存在する可能性はないと思われるが、対象地北側の包含層の下層には遺構の存在する可能性が考えられるため、事前の保護措置を講じる必要がある。

なお、第3図は、工事实施中に発見された手焙り土器である。現地を確認したところ、谷状地形が埋没したと思われる砂質土が厚く堆積しており、遺跡は存在しないと思われる。

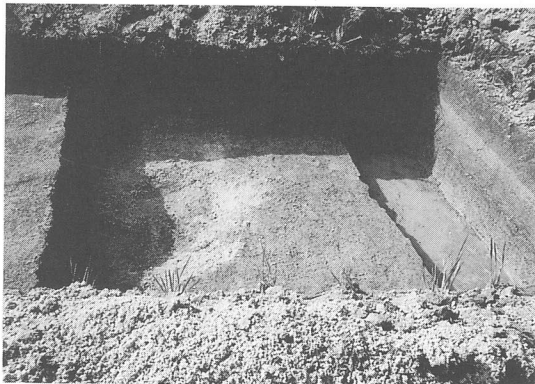
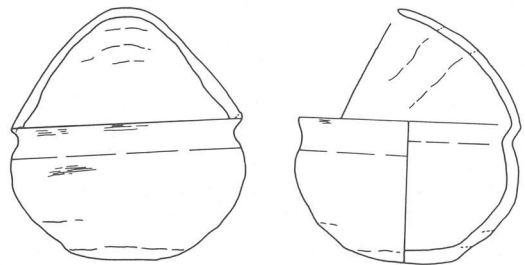


写真2 ⑧トレンチ不定形土坑



第3図 手焙り形土器実測図

平岡遺跡

1. 所在地 三豊郡大野原町丸井字平岡
2. 調査主体 大野原町教育委員会
3. 調査期間 平成元年12月18日～2年10月28日
4. 調査面積 9,328㎡
5. 調査担当者 真鍋 和三・片桐 節子
6. 調査の原因 農村総合モデル事業のため
7. 調査結果の概要

調査の結果、弥生時代中期後半～後期と思われる住居址12棟・掘立柱建物址19棟・溝状遺構・土坑等を検出した。さらに、横穴式石室5基・小竪穴式石室2基、古代から中世のものと思われる土壇墓1基を確認した。その他、まだ時期は確定できないものの掘立柱建物址35棟も存在する。

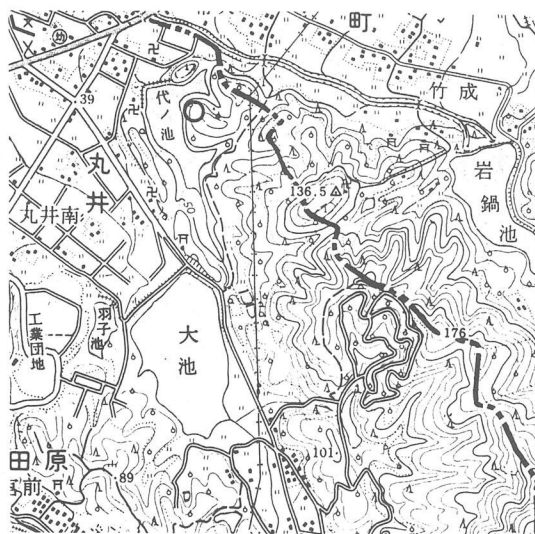
これら遺構は、後世の開墾・掘削・攪乱等のため残存状況は極めて悪く、遺物の出土も少ない。

弥生時代の住居址12棟も破壊が著しく、うち半数近くが切り合っている。1棟消失家屋かと思われるものから完形に近い壺が出土しているが、その他からはほとんど遺物は出土

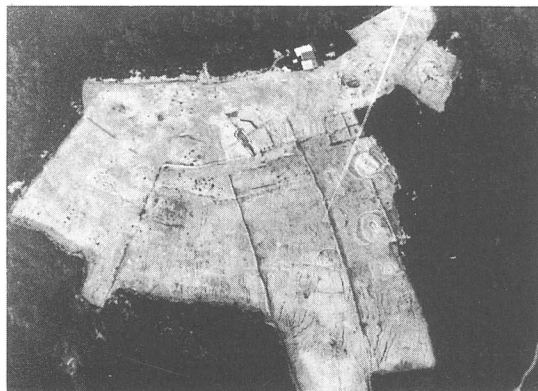
していない。しかし、どの住居址からもサヌカイト片の出土は夥しく、石器製作の跡が窺われる。なお、1棟は横穴式石室1号墳の墳丘下より確認された。

古墳は計7基確認された。

1号墳は石室長9.4m、玄室長4.4m、玄室幅2.1mの両袖式の石室形態を持った三豊地方でも有数の大型横穴式石室である。奥壁に幅1.4m、高さ2.2mという大きな1枚石を用い、基底石にも他に比べて大きめの川原石を用いており、床面は下層に人頭大の、上層に玉砂利という多重礫床を持っている。盗掘のため遺物はほとんど無く、床面からわずかの土器片、玉砂利礫床中より金環3点、土砂洗浄中にガラス玉片・鉄鏃片数点が出土したのみである。その他2～4号墳はすべて二重礫床を持ち、規模も大差なく、所謂小型横穴式石室と呼ばれるものである。小竪穴式石室1号は小児用と思われるが、単独で周濠を持ち、坏と平瓶が副葬されていた。床面は、玉砂利の



第1図 遺跡の位置



第2図 遺跡全体図

1層のみであった。小竪穴式石室2号は、人頭大の礫床が一部残るのみで詳細はほとんど不明である。

古代から中世と思われる土壙墓は、鉄刀1・小皿2が副葬されていた。木棺等の痕跡は確認されなかった。

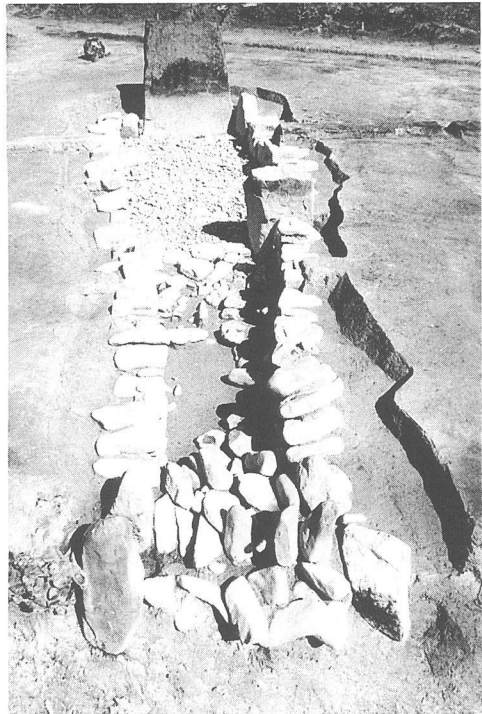
8. まとめ

この平岡遺跡は、阿讃山脈から派生した尾根の先端部に位置し、眼前には、三豊平野・燧灘、さらには荘内半島を一望にする。調査区は山の頂部から斜面部に至り、その標高差は20mにも及ぶ。

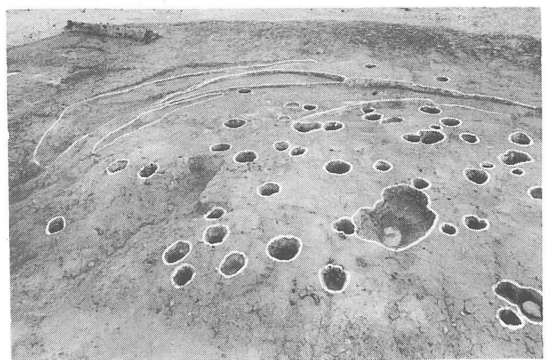
今回確認された弥生時代集落址は調査区の北半を中心に散在するが、全域に及んでおり、出土遺物は少ないが凹線文を持ったものが多く、弥生時代中期後前から後期にかけての集落址と思われる。この集落が崩壊した後数百年後、群集墳が造営されるようになる。古墳は調査区の南部に集中し、眺望の開ける北部には造られていない。開口は全て同方向に向いており、造営集団の性格が窺われる。その中で一番の規模を持つ1号墳は尾根の頂部に位置し、規模・立地等からみても造営集団の首長という位置が与えられるものと思われる。これら7基の古墳の造営期間は6世紀後半から7世紀半ばと思われる。なお、開口方向には同時期に造営されていた縁塚古墳群がある。

古代から中世のものと思われる土壙墓1基は調査区の最低位置で検出された。同時期の遺構は今のところ確認されていないが調査対象区域外に存在する可能性は高いと思われる。

(片桐)



第3図 横穴式石室1号墳検出状況



第4図 住居址検出状況

道音寺遺跡

1. 所在地 三豊郡豊中町大字笠田天神
2. 調査主体 豊中町教育委員会
3. 調査期間 平成2年12月10日～3年3月31日
4. 調査面積 650m²
5. 調査担当者 豊中町教育委員会主事 森 裕行
6. 調査に至る経過

豊中町笠田笠岡の天神及び道音寺跡地よりは古くより古瓦の出土等があり表採によってもかなりの遺物が採集される。伝承としても、昔この地に七堂伽藍の大寺があったが戦国時代に焼き打ちされ今はみる影もないとなっている。このために遺跡の性格と範囲を確定するために調査した。

7. 調査結果の概要

今回の調査では計6箇所にてトレンチを設定して発掘調査を行った。1箇所のトレンチで寺院に関係があると思われる建物遺構を検出した。この建物は3間×3間の礎石を使用したものと思われる。3個礎石を検出したが、後世動かされていないのは1個だけであった。建物の基壇については検出されていない。建物跡が検出されたトレンチで、複弁八葉軒丸瓦（奈良時代）4点と複弁十二葉軒丸瓦（平安時代）1点が検出されている。軒平瓦については奈良時代と思われる均整唐草文の軒平瓦の小片が1点検出されている。

8. まとめ

今回の調査によって、この地に奈良時代に寺院が建立されていたことは、ほぼ確定できるであろう。道音寺は奈良時代に建立されて平安時代までは寺院として機能していたが、平安時代の中期以降は機能していなかったであろう。戦国期に焼き打ちされたという伝承は間違いであった。調査地点より考えて、寺院の中心部分は現在天神自治会の集落の中心にあるものと想定できる。今回の調査地点の西には弥生期よりの集落跡があると思われるが、これについてはこれからの調査による。

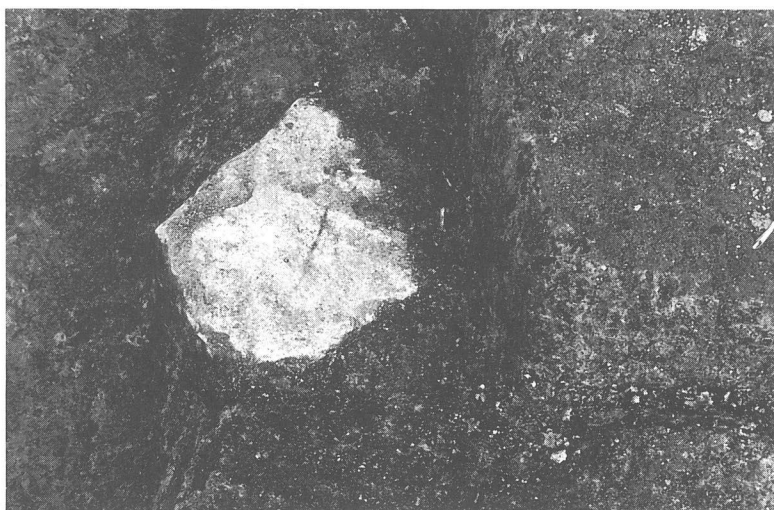


第1図 遺跡の位置

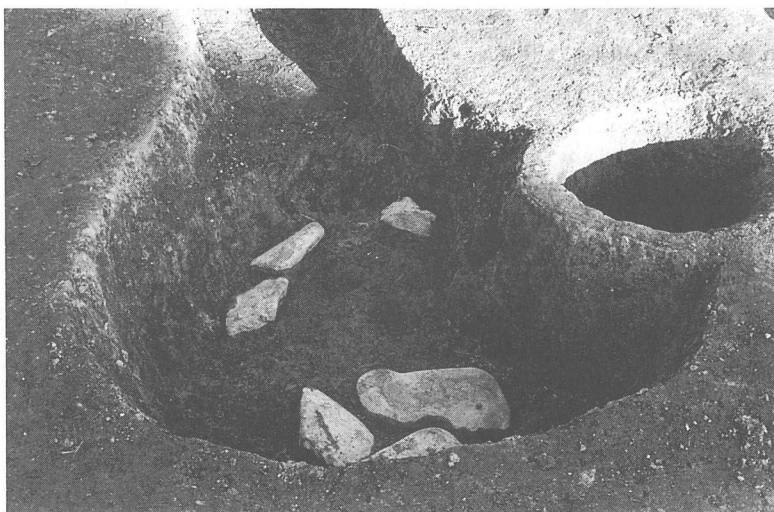
第2図 軒丸瓦出土状況



第3図 礎石検出状況



第4図 礎石抜取状況



金 蔵 古 墳

1. 所在地 三豊郡三野町吉津
2. 調査主体 三野町教育委員会
3. 調査期間 平成2年12月6日～12月26日
4. 調査面積 150m²
5. 調査担当者 三野町教育委員会 森田邦一
文化行政課技師 北山健一郎
6. 調査の原因 公園整備
7. 調査結果の概要

本古墳は、七宝山の東側に派生する尾根上に所在し、標高約22mを測る。神社の敷地内にあり、参道によって羨道が破壊され、天井石も玄室内に落下していた。



第1図 遺跡の位置

玄室は幅1.8m、長さ3.7mで両側壁及び奥壁ともに花崗岩を3段積み上げて構築している。盗掘のため、床面まで既に破壊されており、両側壁及び奥壁の基底部分まで露出していた。

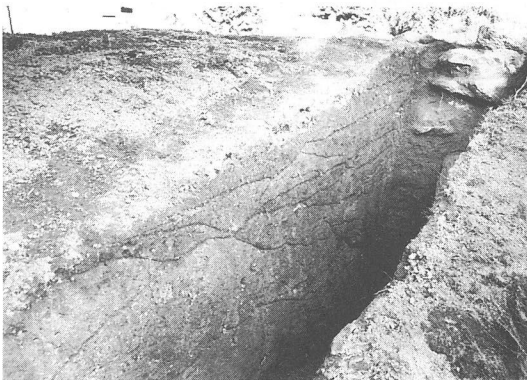
墳丘は地形測量の結果などから、直径約14mの円墳であると推定される。

8. まとめ

盗掘のために副葬品が全く出土しなかったため、時期の特定は困難であるが、石室の形態、墳丘の規模、立地等からみて古墳時代後期（6世紀後半）のものであると思われる。

玄室は、ほぼ南に向かって開口しており、吉津小学校以南の平野を拠点としていた勢力の首長の墓であると思われる。

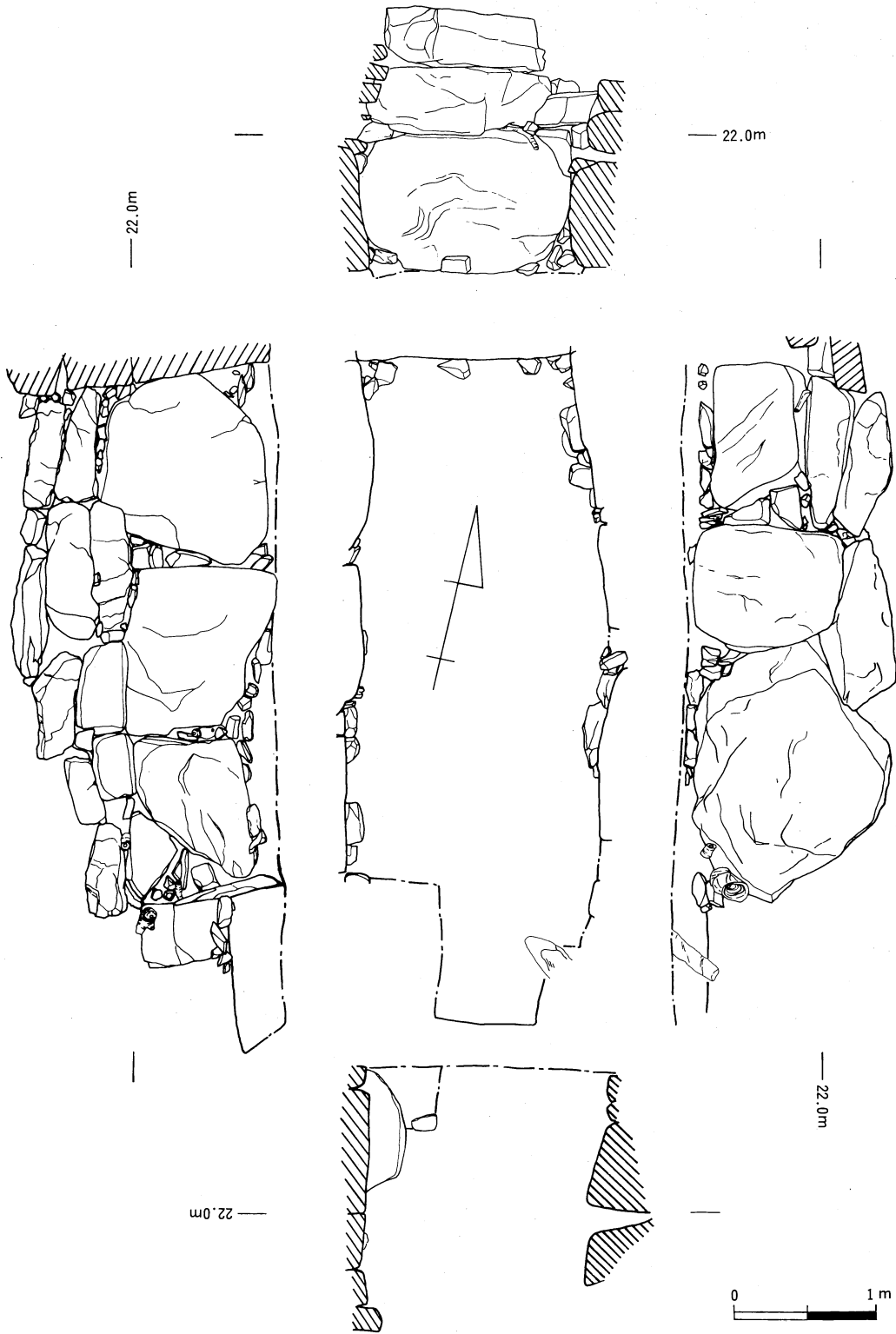
また、玄室の規模は三豊平野東北部で最大級であり、当該地の歴史を考察する上で欠くことのできない重要な資料である。(北山)



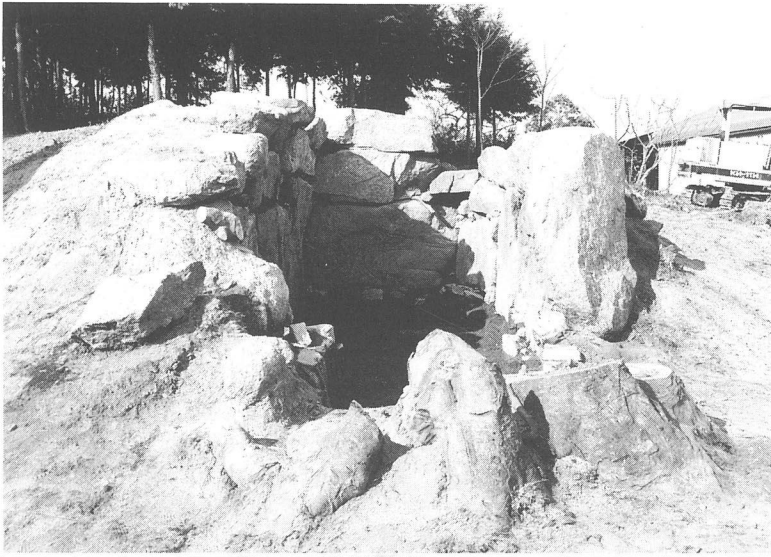
第2図 墳丘西側版築状況



第3図 墳丘北側版築状況



第4图 横穴式石室平面图



第5図 玄室全景



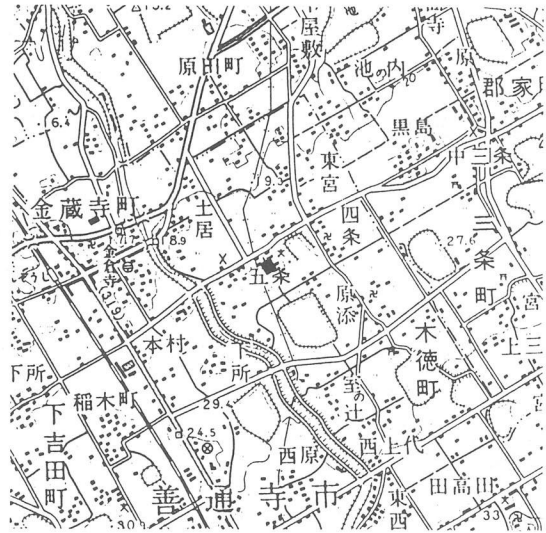
第6図 左側壁



第7図 右側壁

五 条 遺 跡

1. 所在地 普通寺市稲木町原田町261-2番地
2. 調査主体 普通寺市教育委員会
3. 調査期間 平成2年6月4日～6月5日
4. 調査面積 421m²
5. 調査担当者 普通寺市教育委員会 笹川龍一
6. 調査の原因 市道の拡幅・改修工事による
7. 調査結果の概要



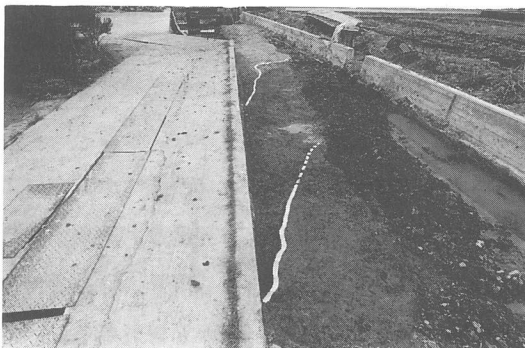
第1図 遺跡の位置

本調査区は五条遺跡として知られる弥生時代前期の集落推定域であったが、市建設課と市教育委員会の事前協議がなされておらず、工事中に弥生土器等の遺物が出土したため、業者からの通報を受けた時点で内容を掌握し、

緊急に調査を実施した。調査着手時には、工事により遺構面直上までの掘削が完了していたため、軽微な作業により遺構を検出することができた。遺構は全て自然堤防上に堆積した礫層・黄褐色砂質土層上に遺存しており、その詳細は以下のとおりである。

8. まとめ

確認された遺構は、弥生時代前期の溝 (SD-01, SD-03) と同時期の土坑 (SK-01) 及び中世頃の溝 (SD-02・SD-04) である。極めて狭い範囲での短期間の調査ではあったが、比較的良好な遺構と伴に土層や遺物の堆積状況が確認できたことは、昭和58年に今回の調査区の北側で実施された調査結果や近年実施された四国横断自動車道路建設に伴う発掘調査結果と併せて、当遺跡の性格や範囲を特定する上で貴重な資料が得られたと言える。また、出土した遺物は現在整理中ではあるが、SD-01・03, SK-01の資料は、弥生時代前期中葉頃の良好な一括資料とみられる。



第2図 SD-01検出状況(西から)

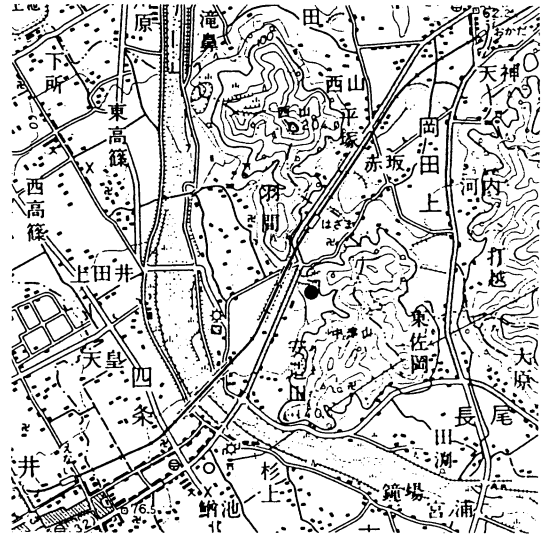


第3図 SD-02・03・04, SK-01検出状況(東から)

安造田東3号墳

1. 所在地 仲多度郡満濃町大字羽間2962-6,7番地
2. 調査主体 満濃町教育委員会
3. 調査期間 平成2年7月9日～9月15日
4. 調査面積 652㎡
5. 調査担当者 満濃町教育委員会 高橋 守
普通寺市教育委員会 笹川龍一
6. 調査の原因 個人住宅の建設による
7. 調査結果の概要

調査対象となった安造田東3号墳は、直径12m、高さ3.5mの円墳で、花崗岩を用いた横穴式石室を主体部に持つ。羨道部の天井が一部失われた状態で開口しており、玄室に盗掘



第1図 遺跡の位置

の痕跡が認められたが、石室及び副葬品の遺存状況は極めて良好であり、県下では珍しい子持ち高坏を含む60点近い須恵器、直刀・鏢・鉄銚・馬具などの鉄器の他、銀環・ガラス製装飾品などの優れた工芸品も多数出土した。特に、X線調査によって銀象嵌による装飾が施されていることが確認された鏢や、国内で初めて出土したモザイクガラス玉などは、この地にこれまでに余り知られていなかった勢力の存在があったことを顕著に示す資料として注目されるばかりでなく、近隣や畿内政権との係わりを考える上で極めて重要である。

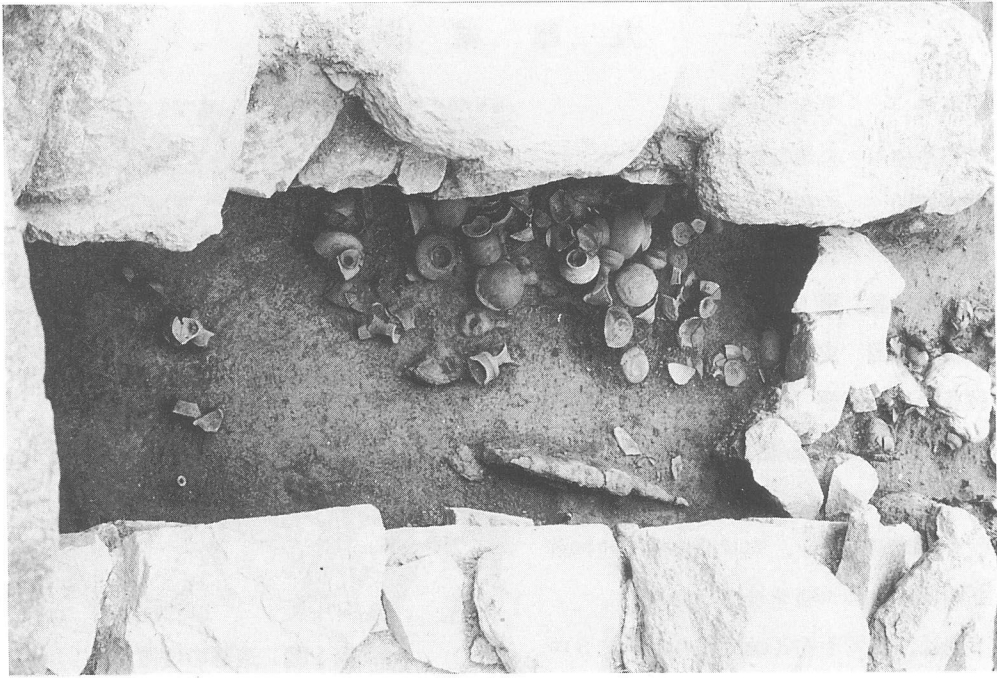
また、本調査では5箇所で見積りの断面観察を行ったが、小規模な後期古墳としては極めて丁寧な版築土層が確認でき、当時の高度な土木技術の一端を垣間見ることができた。

8. まとめ

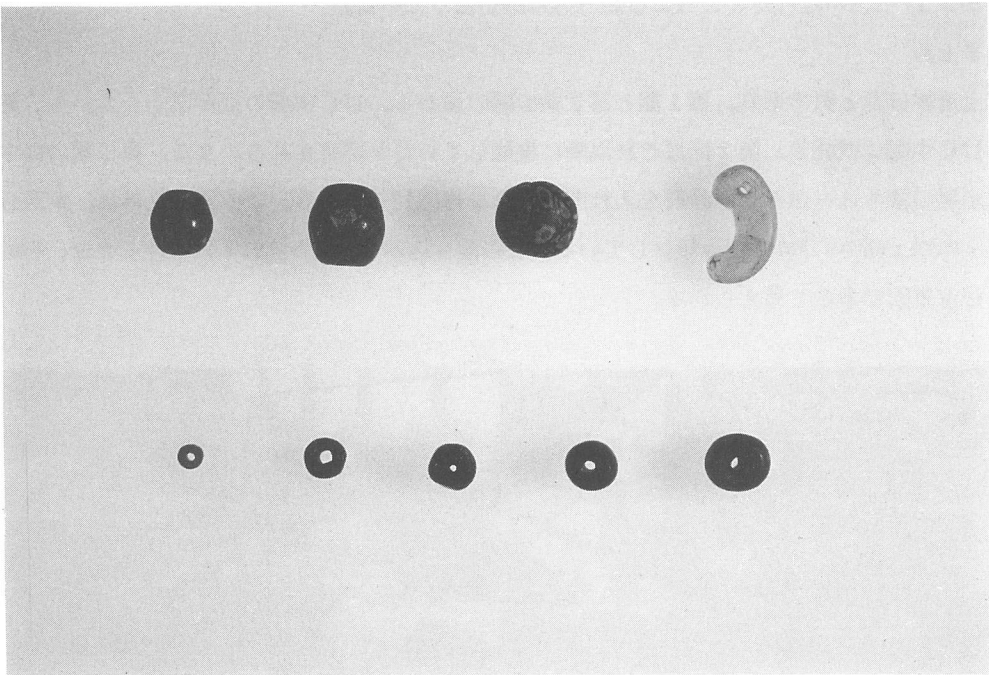
今回発見されたモザイクガラス玉は、3世紀前後に黒海周辺で製作されたものである可能性が高いが、日本はもとより東アジア全体をみても出土例は殆ど無く、この遺物に対する当時の人の価値観や搬入経路などについて知る術はない。しかしながら、同時期の同規模の他の古墳から比較すれば副葬品の質、量は共に優れており、他の優れた副葬品や古墳そのものの構築状態などと併せて、被葬者の性格やその環境などの解明については、大きな期待が寄せられている。

また今回の調査結果を受けて、調査完了後に破壊される運命にあった本墳は満濃町の努力により、文化財指定を経た保存・活用の計画が練られている。地方行政にとって開発は大変重要な課題ではあるが、その対象となる文化財についての慎重な調査と判断、できうる限りの保存のための努力が必要であり、今回の文化財行政の流れは理想的なものではなかったかと思われる。

詳細は、満濃町教委から調査報告書を刊行しているので参考にして頂きたい。(笹川)



第2図 羨道部と遺物出土状況(北から)



第3図 出土したガラス製装飾品類
(左上からトンボ玉・トンボ玉・モザイクガラス玉・勾玉・左下から小玉と白玉4点)

丸 亀 城 跡

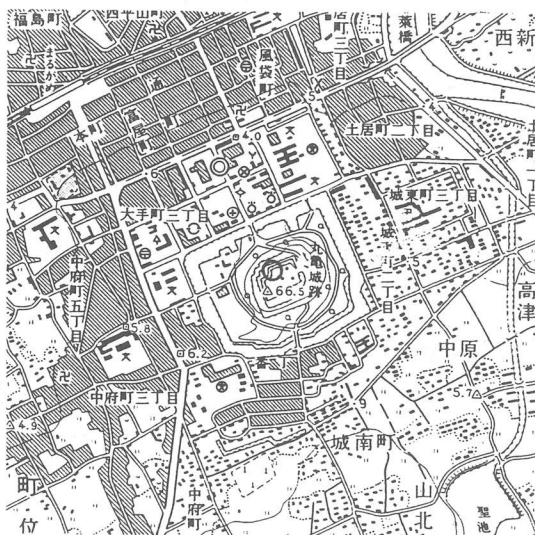
1. 所在地 丸亀市一番丁
2. 調査主体 丸亀市教育委員会
3. 調査期間 平成2年10月1日～平成3年3月30日
4. 調査面積 132m²
5. 調査担当者 東 信男
6. 調査の原因 史跡丸亀城跡環境整備
7. 調査結果の概要 一本丸西側部－

調査は、地表下180cm掘り下げ、石垣の裏込めを確認し完了とした。調査区は盛土であり、遺構面を2時期確認し、両時期に伴う建物跡と第2期に伴う排水路を検出した。

第1期は、地表下約90cmであり、南北5m、東西17m以上（3間×8間以上）の建物跡である。建物礎石は安山岩である。第2期は、地表約44cmであり、第1期と同規模の建物跡である。建物基礎は花崗岩を使用し、また、南側の東西礎石列から1～1.2m離れたところに石製の排水路が沿っている。

8. まとめ

出土遺物は瓦と釘であり、第1期と第2期の間の層から、17C中頃の瓦が出土している。第1期は17C中頃に機能し、第2期はそれ以降に機能していたと推定される。また、第1期には中央部に土層の落ち込みがあり、碎石を入れ内部礎石を再配列している。この落ち込みは、東西11m、南北2m以上深さ0.7mで西へ傾斜している。この落ち込みは、水の流れる筋を生じさせ、石垣の膨らむ主要因であると考えられる。



第1図 遺跡の位置



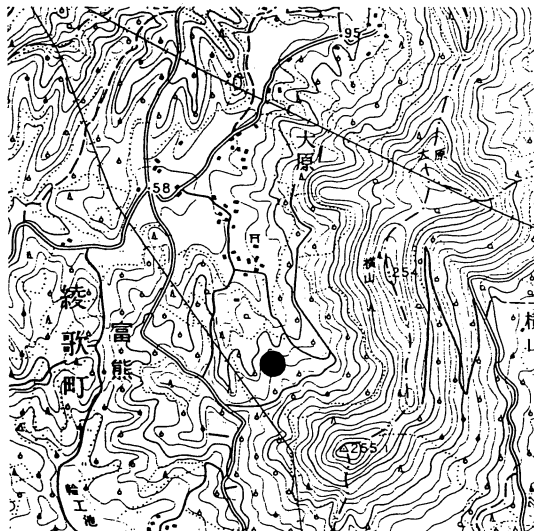
第3図 多間南側礎石列検出状況

第2図 多間跡検出状況

大原南上古墳

1. 所在地 綾歌郡綾歌町富熊大原
2. 調査主体 綾歌町教育委員会
3. 調査期間 平成2年11月21日～12月10日
4. 調査面積 20m²
5. 調査担当者 綾歌町教育委員会主事 大藪博文
文化行政課技師 北山健一郎
6. 調査に至る経過

本古墳は平成元年10月8日に土地所有者である佐藤栄氏によって桃畑の開墾中に偶然発見されたもので、佐藤氏の御好意により、確認調査の上、埋め戻して現状保存されることとなり、上記の日程で、確認調査を実施した。



第1図 遺跡の位置

7. 調査結果の概要

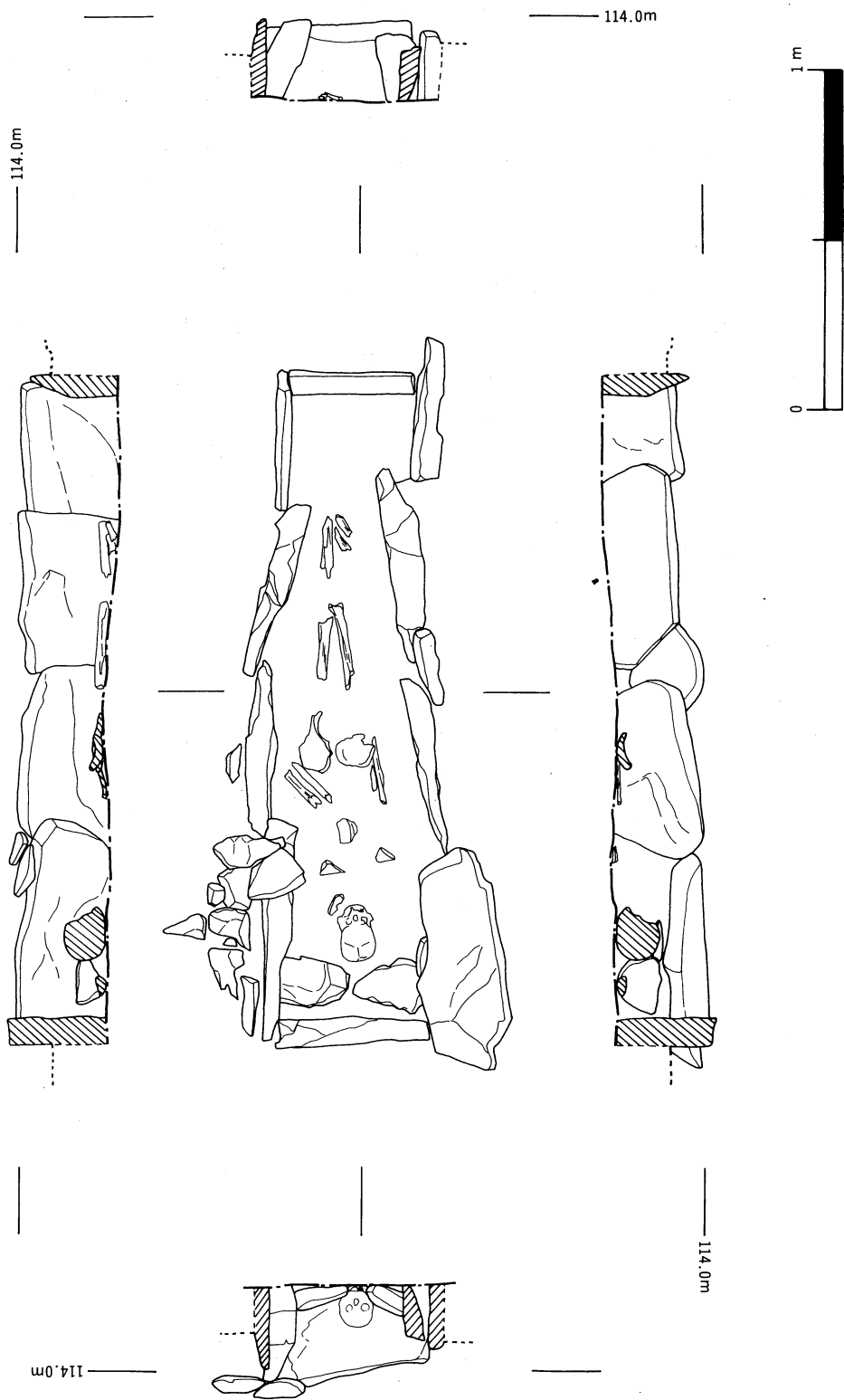
検出したのは、箱式石棺1基であり、開墾中に重機で東側の蓋石が若干動いている以外は、原位置を保った状態であった。検出時の石棺の規模は、2.2m×0.8mで蓋石の上部約20cm及び蓋石間の隙間には、黄色粘土が詰められており、棺内はほぼ密閉されていたものと思われる。掘方は、石棺が斜面に営まれているため、南側では検出できたものの北側では確認できなかった。蓋石は安山岩の板石で東から4枚は80cm×40cmの大きな板石を使用しているが一番西側は、大きな石がなかったのか30cm前後の石を巧みに組み合わせて蓋石にしていた。

粘土を除去し、蓋石をはずしたところ、人骨が約1体分残っていた。石棺の内法は1.9m×0.4mであり、片側4枚の安山岩の板石を「ハ」の字状に組み合わせたもので頭部の小口の方が脚部の小口よりも若干広い。頭部には20cm×10cm程度の安山岩の平たい石を2枚並べて枕石にしていた。人骨は東頭位で埋葬されており、頭蓋骨、背髄の一部、左右の骨盤、大腿骨、脛骨、橈骨が残存していた。いずれの骨も埋葬時の骨格とずれが少ないことから、二次埋葬は行われていないものと思われる。頭蓋骨にはほぼ全面に水銀朱が付着していた。また、石棺内部や枕石等に朱が付着していないことから粉末の朱で顔面を被覆したのではなく、液体の朱で塗布したものであると思われる。

8. まとめ

副葬品は全く出土せず、おそらく遺体のみを埋葬したものであろう。したがって時期の特定は困難ではあるが、周辺に弥生時代の遺跡が所在しないこと、また、古墳時代前期の積石塚である横山1・2号墳や陣の丸古墳群が近くに所在すること、石棺の棺形態等から本古墳も古墳時代前期のものであると推測される。

(北山)



第2图 箱式石棺平面图

第3図 石棺被覆土層断面

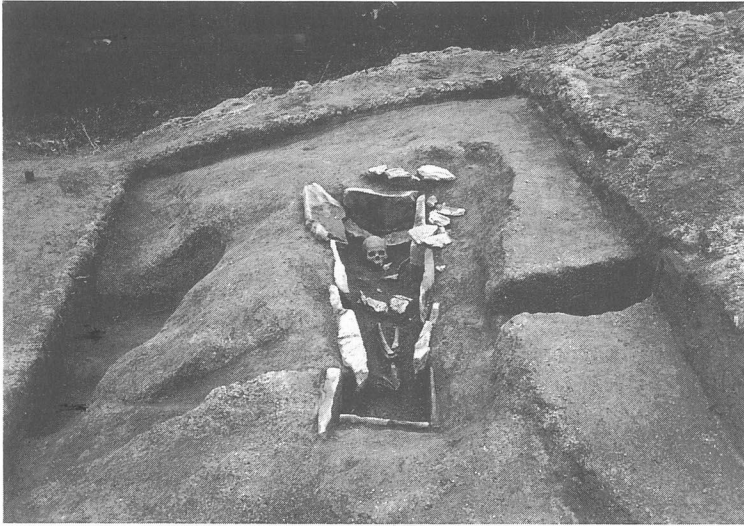


第4図 蓋石検出状況



第5図 開棺状況（北より）

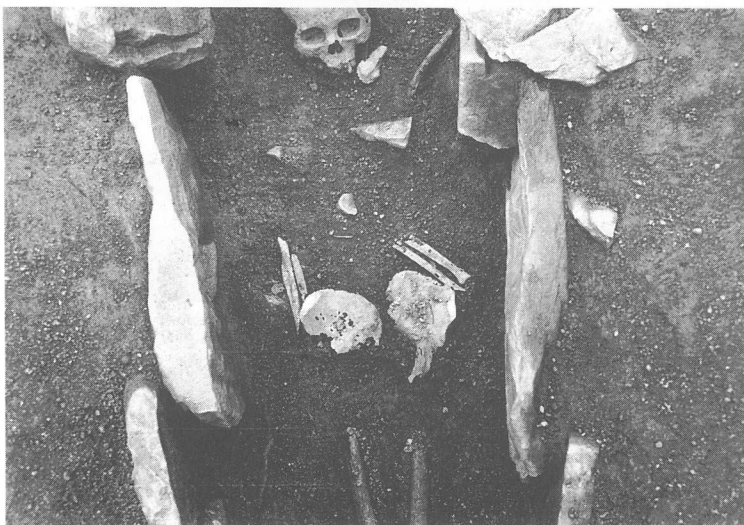




第6図 開棺状況（西より）



第7図 人骨出土状況
（頭蓋骨）



第8図 人骨出土状況
（骨盤）

西 又 遺 跡

1. 所在地 坂出市川津町5202-1・5356-1
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成2年10月12日～11月29日
4. 調査面積 223m²
5. 調査担当者 坂出市教育委員会 今井和彦
6. 調査の原因 電力鉄塔建設
7. 調査結果の概要



第1図 西又遺跡位置図

調査対象区は四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査が実施された地区の西北に位置する。事前の試掘調査結果より、2基の鉄塔予定地を本調査対象区とする。川津町5202-1では耕作土直下に奈良～平安時代の掘立柱建物の一部を検出した。5356-1では、耕作土下約30cmにて暗褐色粘質土を基調とする弥生後期の厚い包含層を検出し、一部の土器溜まりより完形に近い鉢や甕の大型片が一括で出土した。更にこの下の層は、弥生前期新段階の逆L字状口縁と多条化沈線の甕やサヌカイト製石器を多量に含む包含層が検出された。遺構等は検出されなかった。

8. まとめ

今回の調査で特に5356-1で出土した弥生前期・後期の資料は、周辺の地形から考えて、旧河道の比較的浅い部分に位置するものと考えられる。後期の集落についてはすぐ南の微高地に存在しており、前期の集落についてはやや西方に位置する可能性が高いと考えられる。また、西又遺跡周辺での大規模開発等による発掘調査結果から、この遺跡が幾つかの集落群としてのまとまりをもって存在していることが確認されつつある。



第2図 5202-1地区遺構検出状況



第3図 5356-1地区土器溜り

讃岐国府跡

1. 所在地 坂出市府中町5091-2
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成2年7月23日～7月26日
4. 調査面積 36㎡
5. 調査担当者 坂出市教育委員会 今井和彦
6. 調査の原因 住宅建築（菊川時彦宅）
7. 調査結果の概要



讃岐国府位置図

調査対象区は讃岐国府跡の範囲内に位置し『垣ノ内』地区に相当する。又、南に位置する開法寺塔跡や開法寺伽藍との関連も考えられる地区でもある。調査は幅2mのトレンチを東西南北にL字状に設定した。遺構は小ピットが若干検出され、遺物は上層の包含層より古代末頃から中世にかけての土師器等が検出された。東西トレンチの土層概略は以下のとおりである。

東西トレンチの土層概略は以下のとおりである。

第1層 耕作土	20cm	第5層 暗褐色土	20cm
第2層 乳灰白色砂質土	20cm	第6層 暗灰色粘土	30cm
第3層 乳黄灰色土	5cm	第7層 明黄橙色土（地山）	
第4層 乳黄橙色土	15cm		

8. まとめ

近隣の調査結果より、耕作土直下に地山の存在が予想されたが、調査でこの地区の地山はやや深い位置に検出され、開法寺池の谷筋に相当するのではないかと考えられる。この地形は開法寺塔跡の北部にて検出された礎石群の北限を検討する際に重要な資料となるものと思われる。



第2図 調査区東西チレンチ



第3図 トレンチ土層

ひつこん ばら 凹 原 遺 跡

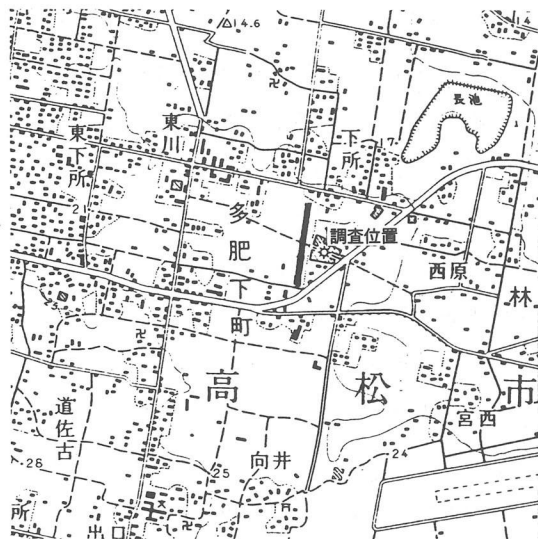
1. 所在地 高松市多肥下町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成2年11月5日～3年2月28日
4. 調査面積 約3,000m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 川畑 聡
6. 調査の原因 都市計画道路福岡多肥下町線建設
7. 調査結果の概要

平成2年6月の試掘調査により確認された遺跡である。石清尾山の南東3kmの所にあり、2つの微高地とその間の谷からなる。検出遺構は弥生時代前期末の溝が、谷底に存在する。また弥生時代中期中頃の竪穴住居跡が1棟ある。

しかしながら当遺跡でもっとも多いのが、弥生時代後期後半から古墳時代初頭の遺構で、この時期の竪穴住居跡は円形2棟、方形7棟を確認しており、方形の竪穴住居跡にはベッド状遺構を付設するものもある。谷の埋没土からは廃棄された土器片が多数出土した。他では谷部分に古墳時代後期の溝、微高地上では近世土坑、噴砂（古墳時代から中世後半の間）も確認している。

8. まとめ

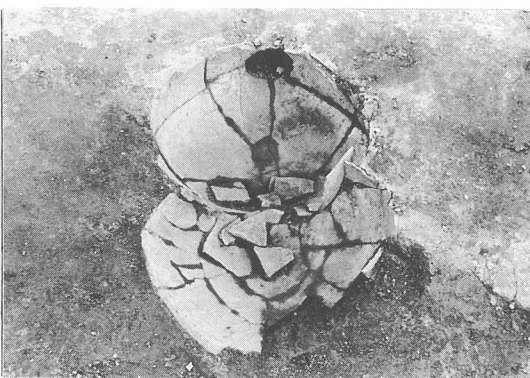
凹原遺跡は弥生時代後期後半から古墳時代初頭の集落址が中心であるが、調査で検出した範囲は集落の東限にあたり、集落の中心は西側に広がる。その規模は遺物の散布状況等から、かなり広い範囲にわたると考えられる。また弥生時代前期・中期の遺構の存在も見逃せない。



第1図 遺跡の位置



第2図 竪穴住居完掘状況



第3図 土器棺出土状況

浴・松ノ木遺跡

1. 所在地 高松市林町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成2年6月1日～10月24日
4. 調査面積 約3,750m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 山本英之
6. 調査の原因 高松東道路建設に伴う発掘調査
7. 調査結果の概要

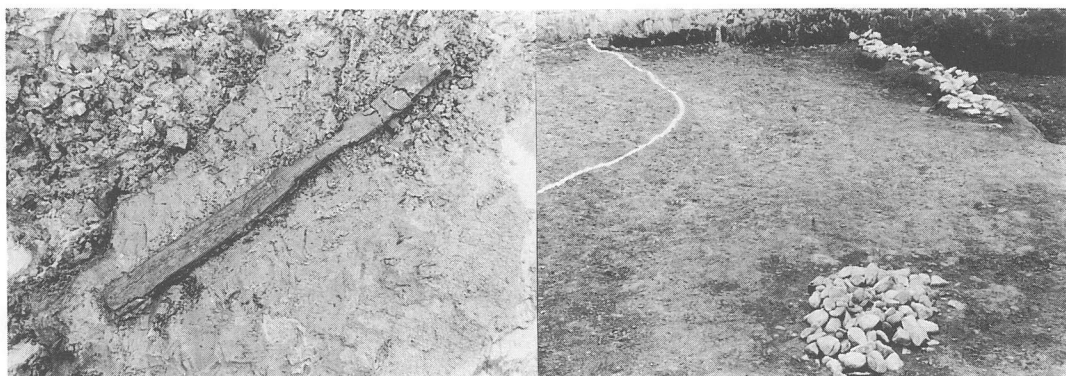
今回の調査区域は、昨年度の浴・長池遺跡の東隣にあたり、旧河道と東岸の微高地部分を検出した。

旧河道は、前年度の調査部分も含めると幅150mにもおよぶ大規模なもので、河道西端の微高地裾部において幅約10m、深さ約4mの自然流路が確認された。川底から弥生時代後期の土器とともに、中央部に握り部を持つ双頭の櫛状木製品が出土している。その後、河道は急速に埋没したようで、地表下約1mの堆積中から河原石で根固めをした幅0.5～1m、高さ8cmほどの畦畔をもった弥生後期頃とみられる水田が検出されている。水田はこれ以降現代に至るまで連続的に営われており、調査ではこのなかから断面観察の容易な数枚を選んで平面的な確認を行った。

旧河道西側の微高地は、黄褐色シルト層の、大変に安定したものであったが、住居跡等はみられず、南北流する溝が錯綜していた。このうちの2本は、幅5～7m、深さ80cm、同2.5～3.5m・60cmといった規模で、北東方向に流れており、溝底に流路に沿って馬の背状の高まりが見られる。調査区内において分水施設等は確認されなかったが、旧河道から幹線水路を経て支流へと水配りをした施設と考えられる。最下層から出土した遺物はいずれも弥生時代後期のものであった。



第1図 遺跡の位置



第2図 櫛状木製品出土状況

第3図 石築畦畔検出状況

弘福寺領田図関係遺跡

1. 所在地 高松市林町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成3年2月14日～3月31日
4. 調査面積 約450㎡
5. 調査担当者 弘福寺領讃岐国山田郡田図調査委員会(委員長木原溥幸)
6. 調査の原因 標記関連遺跡の確認調査
7. 調査結果の概要

本年度の調査は、前回調査区に南接する2枚の水田において行った。調査トレンチは、東西方向に連続する2本と南北に並行する2本の計4本である。

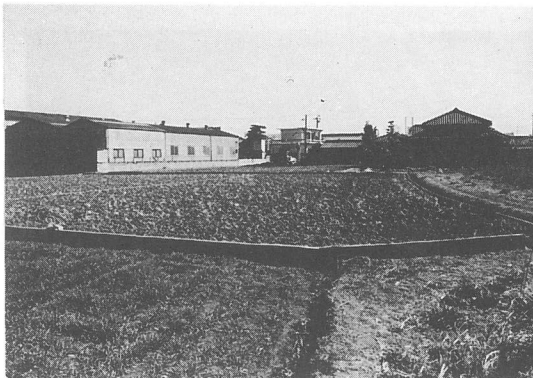
調査は、まず各トレンチの一方に土層観察と排水を兼ねた側溝を掘削し、分層の後に上位より層毎に掘り下げ、遺構の検出および遺物の取り上げを行った。土層は、大別すると5層に分けられる。第1層は現水田耕作土、第2層は近世から近代にかけての4枚の水田、第3層は古墳時代から13世紀までの地表面、第4・5層は弥生時代の小区画水田面である。第3層で検出された遺構は、南北方向の溝6本、ピット群2、掘立柱建物1軒であるが、後二者については近世のものである。

8. まとめ

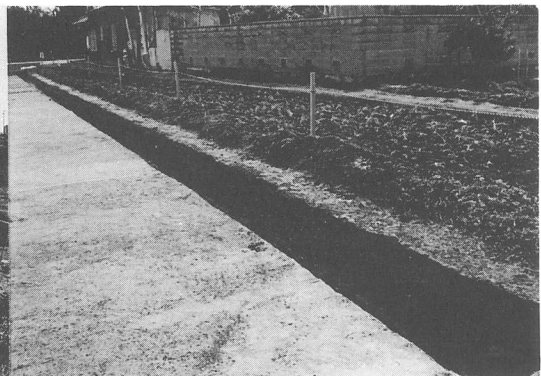
調査によると、調査区東側は微高地で畠、調査区内の大部分は水田、さらに西側は再び微高地であると判明した。このことは、田図に描かれている土地利用の状況とよく対応している。



第1図 遺跡の位置



第2図 調査地発掘前全景(西より)



第3図 東西トレンチ南壁全景(西より)

史跡高松城跡

1. 所在地 高松市玉藻町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成2年5月14日～6月5日
4. 調査面積 540m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 山元敏裕
6. 調査の原因 玉藻公園整備事業
7. 調査結果の概要

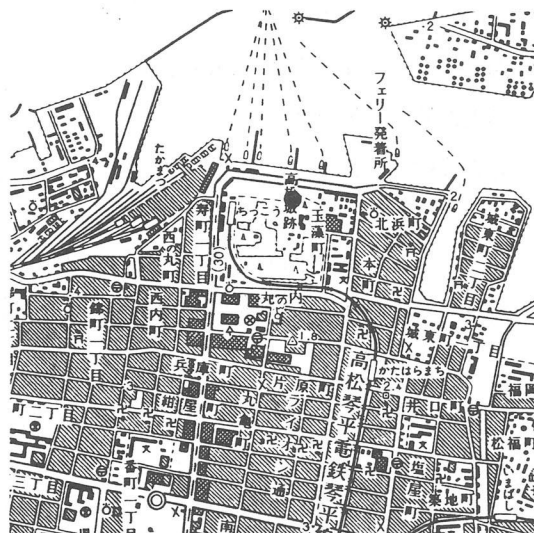
公園整備事業において、掘削が及ぶ範囲についてトレンチ調査を行い(第1次調査),その結果、遺構が確認された範囲については調査区を拡張して遺構の追求に努めた。

検出した遺構は、水手御門から海に出る階段遺構、調査区の南から北西方向に向かって傾斜する褐色砂層の堆積層のみで、他に明確な遺構は確認していない。陶磁器(肥前系磁器、瀬戸・美濃系陶磁器、備前焼等)、瓦(軒丸、軒平等)等が出土している。

8. まとめ

本調査は、高松市によって計画された玉藻公園整備事業の施工前に遺構・遺物の確認を目的に実施したが、結果は以上のようなものであった。階段遺構は、残存状況が悪かったものの、検出できたことは一つの成果であった。

また、調査区南から北西方向に向かって傾斜する褐色砂層の堆積は、供伴する出土陶磁器より、19世紀後半頃の時期が考えられ、このことより、この層が明治37年に埋め立てられる以前の砂浜の跡と考えられる。



第1図 遺跡の位置



第2図 水手御門前階段遺構



第3図 III区深掘りトレンチ完掘状況

石舟池古墳

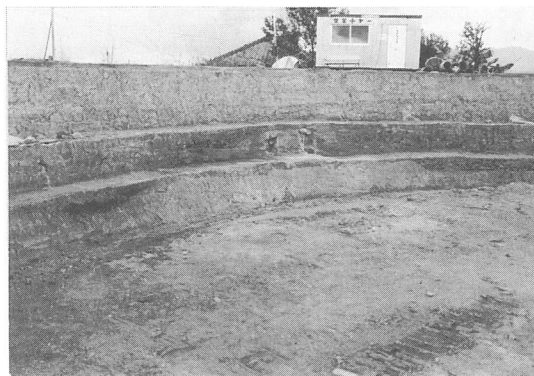
1. 所在地 高松市三谷町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成3年1月5日～1月31日
4. 調査面積 約50㎡
5. 調査担当者 高松市教育委員会 山本英之
6. 調査の原因 石舟池の堤防改修
7. 調査結果の概要

古墳は、石舟池の北側の道路から池の東端を巡って三谷石舟古墳へと続く小道の入口部分の堤防中より発見された。当該地では、三谷土地改良区が平成元年度から5箇年計画で堤防内壁の護岸工事を進めており、昨年度も工事中の堤防から箱式石棺が発見されている。

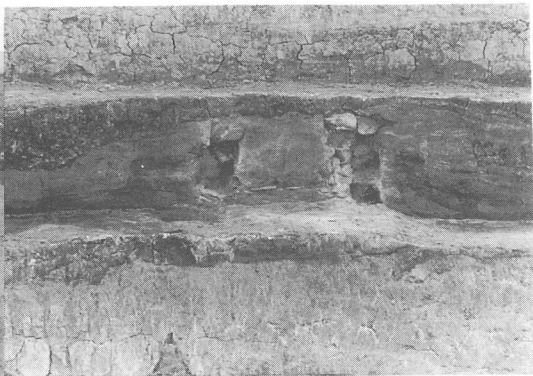
今回の調査で確認したのは、主体部である竪穴式石室の小口断面と、墳丘盛土の版築の状況である。石室は内法幅約80cm、同高さ約60cmで、主軸はほぼ東西を示す。側壁は小児頭大の花崗岩の塊石を4～5段に垂直に積み、床面に板石を敷く。墳丘は直径8～10m、現存高1m、黄褐色の花崗土質の砂礫と灰質の乳白灰色のシルトが約10cmの厚さで互層に堆積しており、石室材との相互関係から石室と並行して構築された可能性が高い。墳丘の両裾には幅約1.5m、深さ20cmの溝が掘られており、周溝になるものと思われる。墳丘を密封する堤防の花崗土中より碧玉製の管玉が出土しており、石舟池の築堤時期や三谷石舟古墳の性格、築堤前の環境等がはっきりするものと思われる。



第1図 遺跡の位置



第2図 古墳検出状況遠景



第3図 墳丘築成状況

諏訪神社遺跡

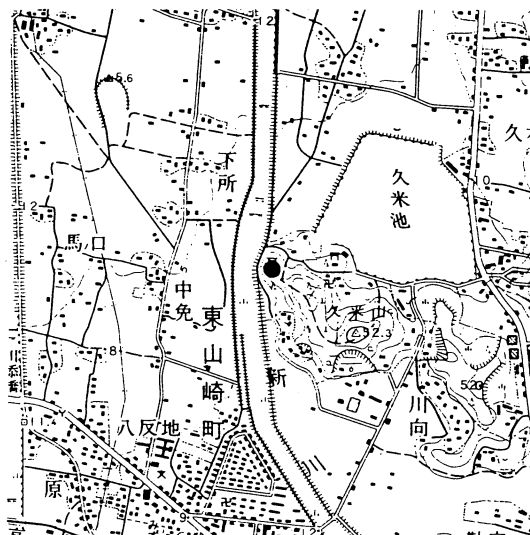
1. 所在地 高松市東山崎町諏訪神社
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成2年11月7日～12月10日
4. 調査面積 約850m²
5. 調査担当者 高松市教育委員会 山元敏裕
6. 調査の原因 諏訪神社本殿移築
7. 調査結果の概要

当初、諏訪神社本殿下に箱式石棺らしいものが存在するだけで、他に周知の遺跡等は確認されていなかった。調査の結果、遺構は諏訪神社境内全域に広がることとなった。

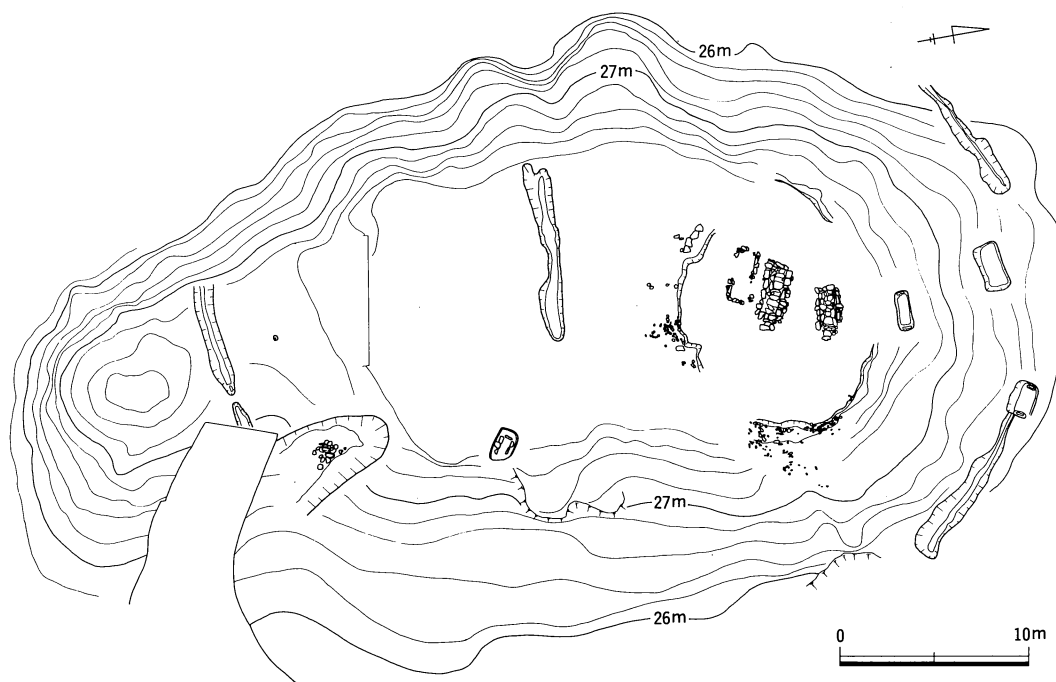
検出した遺構は、古墳3基、土壙墓3基、壺棺墓1基、溝3条等であり、時期的には弥生時代前期から古墳時代後期にわたるものである。

諏訪神社本殿古墳

本殿下で石室の一部が露出していた古墳である。古墳の形状は不正円で、規模は長軸12.5m、



第1図 遺跡の位置



第2図 遺跡全体地形図及び遺構配置図

短軸12mである。墳丘裾東・南側に石列が認められる。内部主体は、並列する竪穴式石室3基を確認した。墳丘中央部のものを第1、北側を第2、南側を第3竪穴式石室と呼称している。

第1竪穴式石室 石室内長軸260cm，短軸75～85cm。床面に板石を敷き，その上を粘土で被覆する。供伴遺物は碧玉製管玉が1点出土している。

第2竪穴式石室 石室内長軸250cm，短軸80cm。床面に板石を敷き，その上及び側壁1段目が隠れる程度に粘土を巡らせる。石室東部小口付近に赤色顔料を塗布した土器枕が置かれていた。

第3竪穴式石室 後世の攪乱を受けて残存状況が最も悪い石室である。石室長軸255cm，短軸80cm，側壁残存状況の良好な部分で5段の石積が確認できる。

箱式石棺 石棺内長軸110cm（残存長），短軸40cmの規模をもち，40cm程度の塊石を利用して側壁を構築し，床面は5～10cm程度の河原石を敷き詰める。

壺棺墓 器高55cm，最大胴径45cm，口径20cm程の壺を棺身とし，胴部上半に径30cm程の円形に打ち欠き，口径約50cmの鉢を蓋に利用している。また，壺の最大胴径部分に穿孔が見られる。

土壇墓（ST01～03） 規模は，長軸190～230cm，短軸85～150cmの規模をもつ。いずれも，両小口床面に小口板の痕跡が観察できる。

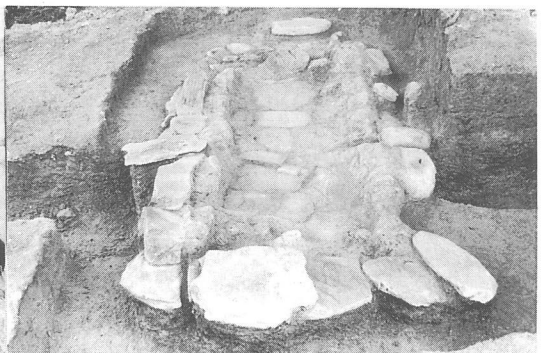
溝（SD01～03） 丘陵を横切る溝を3条確認した。中でもSD03は，断面V字型を呈し，丘陵裾をU字型に巡る。

8. まとめ

調査の結果，本殿下で検出された墳丘墓は，埋葬主体，少ない出土遺物等から考えると，弥生時代末～古墳時代初頭頃が考えられる。今後，県内及び周辺地域の類例などからさらに時期限定を行いたい。丘陵裾から検出した壺棺墓は，壺の形態等から弥生時代末頃と思われ，古墳との関係が注目される。丘陵を横切る溝（SD01・02）は，出土遺物等から弥生中期後半と考えられ，同時期と考えられる土壇墓と外部を画する溝と思われる。SD03については，弥生時代前期と考えられ，周辺に前期の遺構は確認されなかったものの，環濠集落である可能性も考えられる。



第3図 諏訪神社本殿古墳主体部（南から）



第4図 第2竪穴式石室全景（西から）